様式第３号（第４条関係）

舞生図第　１９　号
令和６年８月６日

森本　隆　様

舞鶴市長　　鴨　田　秋　津

行政文書開示決定通知書

令和６年６月１０日付けの行政文書の開示請求について、舞鶴市情報公開条例第９条第１項の規定により、次のとおり開示することと決定したので通知します。

行政文書の件名	①第１回図書館再編についての懇談会議事録（参加者） ②第２回図書館再編についての懇談会議事録（参加者） ③第２回図書館再編についての懇談会議事録（傍聴者） ④第３回図書館再編についての懇談会議事録（参加者） ⑤第３回図書館再編についての懇談会議事録（傍聴者） ⑥第４回図書館再編についての懇談会議事録（参加者） ⑦第４回図書館再編についての懇談会議事録（傍聴者） ⑧第１回これからの図書館を考える市民ワークショップ議事録	
開示の日時及び場所	日　時	令和６年８月６日（午前・午後　　時　　分）
	場　所	舞鶴市立西図書館
開示の方法	写しの交付	
担当部課等	生涯学習部　図書館課 電話番号　０７７３－６８－９２２１（内線　　）	
備　　考		

（注）　１　指定された開示の日時の都合が悪いときは、あらかじめ担当部課等へ連絡してください。
２　開示を受ける際には、この通知書を提示してください。

第1回 図書館再編についての懇談会

1. 開催日時 令和6年４月17日(水) 14時～16時
2. 開催場所 東図書館研修室
3. 参加者 10名
4. 傍聴者 ４名
5. 懇談会の内容
   ①開会
   ②自己紹介(事務局、参加者全員(名前と図書館の思いでについて一言))
   ③図書館再編の説明(事務局)
   ④参加者との意見交換
   ⑤閉会

【参加者との意見交換】

(参加者)地方債と書いてあるが、何年で返していくのか。

(事務局)財源として国庫支出金と地方債、これは約20年を想定している。そのうちの約20%が交付税措置と予定している。

(参加者)交付税措置というのは何か。

(事務局)地方債を借りた後に、一定国から交付税として、返済金に対してみてもらえる、そういった地方債に充てるということを今考えている。

(参加者)16億円を借りたら、いくら返す。20%は返さなくてよくなるのか。

(事務局)返した後に国から地方交付税として返ってくる。

(参加者)16億円を20年で返して、それは今の財源から16億円÷20なので8,000万円ぐらいか。

(事務局)そうだ。公債費という形で予算が組んであるが、それはいろんな建物や整備した際に、借りたお金の中から返していくという公債費という費目がある。

(参加者)一般財源とは違うのか。

(事務局)支出の支払い方。例えば「教育費」とか「総務費」などあるが、それに対して公債費というのは、借金を返す専門費目みたいなもので、その費目から返済していく。

(参加者)8000万円から一般予算から削り出して毎年返していかないといけないのか。

(事務局)その公債費という中から、出していく。図書館以外にも、これまでに整備した建物はたくさんあるので、同じように借りて、毎年借りて毎年返すというのがずっと続いている。一つの貸付金になってくるということだ。

(参加者)借金の利率はいくらか。

(事務局)年によって変わってくるので、なんとも言えない。わからない。
(参加者)わからないことをわからないでごまかさないで、次の宿題としてお願いできるか。みなさんもわからないことがあれば、次の宿題で持って帰ってもらい、次に回答してもらえるようにしたい。話が難しいので、議事録はしっかり出してもらえるのか。
(事務局)議事録は今のところ出すことは考えていない。
(参加者)議事録を作ってもらわないと困る。それがないと私たちの意見が反映されたかどうかわからない。
(事務局)皆さんのご了解を得てということで考えさせてもらう。
(参加者)意見を聞いてもらえると思って来ている。それを聞いてもらえたのか聞いてもらえなかったのかわからない。市民の意見を聞くために、これを設けたのではないのか。
(参加者)市長まで持っていってほしい。
(参加者)この長寿命化改修 10 数億円というのは、どこから来た数字か。
(事務局)設計業者等に確認した。あくまで想定ではあるが、数億円かかるだろうと言われている。
(参加者)それは東と西の耐震確保か。
(事務局)今後、引き続き 30 年、ずっと使えるようにするための改修だ。エアコンも含めて。
(参加者)その数十億円は全部市で出さないといけないのか。図書館を長寿命化するための国庫補助金などはないのか。
(事務局)現在はないというところだ。
(参加者)小学校などは耐震化を全部していて、基本的には補助金を全部使わずに舞鶴市のお金でやっているという形なのか。
(事務局)専門的なところは詳しくないが、学校のための補助金は使っていると思う。図書館を長寿命化で改修するための国庫補助金は見つけられていない。
(参加者)公的な建物なので、あるような気がするが。
(参加者)一般市民として、東西図書館を利用してどういう感想を持つか。古い本ばっかりである。中央図書館ができたらレベルがアップして、サービスも良くなるということをいっているが、現状をもっと見てほしい。古い本ばかりだ。土・日曜日に行ったことはあるか。西図書館の研修室と資料室で生徒が勉強しており、私も調べ物していたら、中高年の人が平気でその中へ入ってきて新聞を読んだりする。マナーを直して欲しい。中央図書館ができて、レベルが上がってなどというが、絶対そんなことはない。舞鶴にある図書館を見たらどういうレベルなのかわかる。城南会館にも何回も行ったが、館長が、ここができてから全く本は入れ替えされていないと言っていた。そんな状態だ。中央図書館が出来た、レベルが上がった、そんなことは信じられない。
(参加者)議論の焦点を絞って、項目ごとに議論をしないか。
(参加者)当然それは大事なことだが、共通の問題として、みんながどういう方向に行ったらいい

かを相談するのがこの懇談会だと思う。

(参加者)いろんな意見を出し合うのが懇談会だ。中央図書館を進めていくのか、反対の市民の意見を聞く場なのだ。

(事務局)図書館をしっかりと成長させていくには、優れた図書館司書が必要である。それに加えて新鮮で魅力的な本、古い本しかないというお話もあったが、本をしっかりと揃えていくということも重要になってくる。また居心地がいいような、機能性があって広場性がある図書館の施設というのも必要だし、市民の助けが絶対に必要になってくるので、市民の皆さんからのご意見を聞きながら、図書館の支えとなってもらえるような、私たちも市民の方を助けることができるような図書館というのを目指していきたい。司書からも現場の現状をお話する。

(事務局)コロナ以降は利用が落ち込んでいる。平成30年以降、いろいろな場で、これからの図書館をどうしたらいいかということを協議する中で、例えば全域にサービスを届ける、いろんな世代の方に図書館を利用してもらうということが、今までできていなかったと気がついた。今の期間は、図書館再編までの助走の期間と捉え、いろんな取り組みをする中で、盛り上げていき、新しい中央図書館を中心に全域にサービスを、全世代にサービスを届けるために、私達も研修もしながら、取り組んでいっているところだ。

(事務局)色々なことでサポートしてもらいながら、市民の方にも交流していただけるような、そんな図書館にしていきたいと思っているので、意見を聞かせてもらいたい。

(事務局)カウンターに出ていると、これからどうなるのかということを聞かれることが多い。分館を設け、本の受け取りができ、また本を巡回させるので、新しい本も借りていただけるようになるということを説明した。私たちが説明した中では、それだったら安心だと言っていただいた。その反面、ここを残してほしいという人もいる、難しい問題ではあるが、東図書館の近くの方が近い方がいいと言うのは当然のことだと思うし、身近にあるのは当然のことだとは思うが、図書館が遠い地域の方もたくさんいる。そういう方たちにも届けたいという思いで、再編を考えている。

(参加者)遠くなったら借りられない。

(事務局)今も遠くて借りにこられない方に、ブックモービルなどを紹介していきたい。子供に対しては、学校の支援などを行っていきたい。

(参加者)ブックモービルは今のままでも行けないのか。

(参加者)以前、図書館協議会の会長か副会長さんが西舞鶴と東舞鶴が距離にしたら近いようなことを言っていた記憶があるが、東舞鶴から西舞鶴まで自転車で行けるか。

(参加者)今の状態ででも図書館が遠い方があると言ったが、それを一つにしたら余計遠くなるのではないか。

(参加者)雪に濡らしたら駄目ではないか。15冊が自転車でどれだけ重たいか。遠かったら行けない。

(参加者)まずは中央図書館が必要なのか、そうでないのかという、市民の中で一番別れている

ところだと思う。私は必要だという立場だ。それは今まで中分館、南分館と言われているものが、実際の図書館として機能せずにずっと来たのは、単に東西の図書館がそれを援助すればいいという形で放っておいたことが原因だと思うので、いわゆる中央銀行に対する銀行のサービスというのがあるように、中央図書館は必要だと考える。内容については、基本計画の内容でぜひやっていってほしいと思う。ただし、その際に、30万冊開架という規模の大きなものにするという形で出てきた。30万冊開架というのは、30万冊の本を利用者の見えるところに全部開放するという意味で、それ以外に書庫に20万冊で合計50万冊の蔵書という計画だ。

(参加者)中央図書館を市は進めているが、それは全市民の賛成の元でやっているのか。

(参加者)賛成か反対かをまず聞いてみたらどうか。

(参加者)なぜ賛成か、なぜ反対か。そういう意味でそれは必要だと思う。その際に、課題解決型という形で掲げて、それで高度な活動をするのだと言うことが必要かどうかは、まだ疑問だ。

(参加者)それに対して疑問があるが、課題解決型で専門書を置くとあるが、専門書というのは、新しいから専門書であって、2年、3年経ったら、それは専門書ではなくなってくるのではないかと思う。図書館の性質的に、税金で買った専門書を2年3年で買い換えて、古いのを捨てるのかというと、そんなことはないのではないか。そうすると借りない本が積もっていくのではということが疑問だ。

(参加者)私が最初にぶつかったのは、資料費が1,400万円あったのが640万円まで下がった。そのときに、なぜそうしたのかと質問状を出した。議会でも議論になった。その中で言われたのは、計画では22万冊を予定しているが、今はもう25万冊になっているので本はいらない、と答弁している。22万冊というのは、1期前の計画である。そのとき18万冊しかないので、それを22万冊にするというのは、総合計画に書かれているだけなのだ。新しい図書館が20年ぐらいならだんだん古くなる。その本をどういう形で新鮮なものに変えていくかということで次の計画が必要である。次の計画がどうなったのかと思い、経過を調べてみると、社会教育委員会議が平成24年に提言を出している。そのとき、図書費の充実や地域間のオンライン化という課題をあげているのに、その問題をどうするのかという話が進むのかと期待をして経過を見ていると、ある日突然、その話は社会教育委員会があるので、図書館協議会はつくりませんという答弁になった。この答弁に変わった2年後に、図書費が半分となっている。それをやった教育委員会から市長部局に図書館が移るという、ものすごく乱暴なことをやっている何年間がある。この間に舞鶴の図書館はずっと落ちていた。ところが、図書館協議会の副会長の発言に対して、図書館が停滞した原因は何かと聞かれたときに、それは課題解決型図書館をやらなかったからだというような説明をしていたから、それは違う、それは図書館計画を作らなかったことと、図書費をいきなり半分にしたこと、この市政の失敗が原因じゃないかと私は思った。そのときは前市長だったので、露骨には言わなかったが、やはり計画がなかったことと、それから図書費がなかったこと、本当だったら図書館協議会を開いて、そこで市民の意見を聞いて、図書費を半分にするのだったら仕方がない、そこまで市政が大変なのだったら仕方がない

ということになる。ところがそういうこともなく、いきなり図書費だけ半分になった。そのとき舞鶴市は新幹線を通せと一生懸命運動していた。市民としては、ちゃんと図書館計画を作れ、そのため図書館協議会を作れ、という意見書を出している。

(参加者)今の話を聞いて、今まで司書として500%力を出し尽くして図書館運営してきたと言い切れるのか。ちゃんと予算をもらってきたと言い切れるのか。ハードの話、ソフトの話を一緒にしているが、ほとんどがソフトの話ではないか。図書館の予算がちゃんとあって、司書も人数を膨らませて一生懸命頑張れば、図書館がなくても全部解決する。今の話を聞いていると、予算不足が多分1番問題じゃないのか。人手も不足だと思うが、自分の持てる司書の力を100%使ってきたのかと聞きたい。

(事務局)頑張ってきたつもりではいる。その状況に合わせた中で、精いっぱい工夫している。

(参加者)もっとこうしたかったとかあるか。

(事務局)予算でもスペースでもあればあるほど良いサービスができたことは間違いないと思う。だからこそ、中央図書館を計画した。

(参加者)市民に対して、読みたい本のアンケートの一つでも取ったのか。

(事務局リクエスト制度は予算が半減されるまではしていた。

(事務局)舞鶴市は中央館というのがなくて、東・西の図書館を中心にやるということで、わかれてやってきたが、同じようなことをそれぞれの館でやっていて、事業も1ヶ所で集まれば、4つのことができるのが、それぞれでやっているので半分しかできないということもある。資料も、人のパワーも、1ヶ所に集めることで今までできなかったこと、いろんなサービスをやっていきたいという思いもある。

(参加者)それは自分たちの都合だ。自分たちは仕事ができないと言っているのと一緒だ。

(参加者)これでいったら全部できるかというと、そうとは言い切れない。

(事務局)集約することによってやっていきたい、計画を作っていきたいとは思っている。

(参加者)機能は集約すればいい。それぞれの地域は、地域館としての仕事ができる状態にしないといけない。今までの分館はそういう意味で何もやってなかった。名前だけでも東図書館という名前でやったらどうかと、私は提案をしている。

(参加者)それでは考え方が横着だ。今まで仕事ができなかったものが、できるようになるわけがない。

(参加者)去年の「広報まいづる11月号」で、鴨田市長が書いている。その中で東西の図書館はいずれも中央図書館ができたら除却、廃止すると言っている。みんな賛成したのか。それが不思議でならない。

(参加者)よくわからない。小さい、東・西以外の小さな分館というか図書館。東西図書館からは京都や大阪から、所蔵していない本を借りてもらえる。その東西以外の分館からは借りられない。3つの分館からできるのではないか。38億かけなくてもできるのではないか。少ない金額でできる。本が古いと言われるが、自分がこういうもの欲しいとか、こういう分野の本が知り

たいと言うと、ここで十分に題名がわからなくても、こんなのはどうかとか、これは京都にあります、これは大阪にありますなどと引いてもらえる。だから新しい本を置く必要は全くない。古い本は駄目な本ではない。38億も一部借金になる。何のためにそんなことやるのか。

(参加者)物を大きくすると言ったときに、例えばラーメン屋とかあるが、いっぱい人が来て、このキャパでは足りないから大きいのにするというのはわかるが、人が減っている。人が来ないラーメン屋を大きくしても人が来るのだというのはギャンブルだと思っていて、土日に西も東もすごい人が来て、これではもう市民のニーズに応えられないから、大きくするというならわかるが、今はこの舞鶴で図書館のニーズが少ないのに、大きいのを建ててもどうなのか。まずニーズを上げるというところは図書館の質を上げて、本をいっぱいにして、司書も本の発信をして、もっとニーズが高まってきてから、大きいところを建てるのが筋なのではないか。

(参加者)子どもの人数が減っていて、電子書籍もしている。専門書と言っても見ないと思う。名前は中央図書館でも、結局私のイメージは、西図書館が大きくなるだけであって、東は不便になって。結局、司書はつくのか。分館のところ、「まなびあむ」や「商工観光光センター」などどこまで話が進んでいるのか。

(事務局)分館について、今の候補施設であるが、司書は一定必要と考えている。ただ、その後の運営によっては、もしかしたら2人になるかもしれないし、ゼロになるかもしれない。

(参加者)その点は非常に心配している。

(参加者)ただでさえ本が減らされて、以前は本を買うと言っていたが、それが買ってくれない。京都府全域から取り寄せる、人気本は人気なので、半年後にリクエストしてくださいと待たされて、なかなかこない。だからそういうサービスも悪くなっている。最初だけいいように言うが、どんどん質は低下すると思う。実際子供たちが自転車で西舞鶴まで行けるのか。学校帰りにここで勉強したり、本読んだり借りて帰るのを、司書はどう思っているのか。

(事務局)それを何とかしたいという思いがある。学校にBM車を走らせて子供たちに昼休み見てもらうなど、みんなに本が回るような仕組みが必要。

(参加者)それが、20年30年50年続くのか。絶対予算がない、利用がないと言って。

(事務局)BMは、移動図書館のこと。実際、福知山や宮津もやっているが、学校や福祉施設に本を届けたら、子供たちがワーッと昼休みに借りに来たりする光景が見受けられる。

(参加者)BMはすごくいいのはわかったが、今BMを導入したらいいのではないか。

(事務局)できたらいいが、今は分散しているので難しい。

(参加者)では、その分増やしたらいいではないか。BM用に人がいるのだろう。それで解決ではないのか。ハードとソフトの話を一緒にするからおかしい。

(参加者)こういう問題が起きて、東西、中央と南公民館の図書館を見て回った。今、中央も南も図書館と言っているが、あんなものは図書館のうちに入らない。学校の図書室以下である。子どもたちが来ているが、そういうところを30億もかけないで、充実させてお金をかけた方が、子供たちも近いところにあるから行きやすいと思う。最初から中央図書館を作るという感じ

で、ここもなくして、便利になる、移動図書館もできる、そのとおりにいくとは限らない。
(参加者)ここにいる人はみんな図書館のサービスを充実したいのだ。何もいいサービスがあることに誰一人反対してないと思う。みんな賛成だ。図書館もできる。でも、そのやり方が、民間とではかなり違うのではないかということ。そこのところをもう少し理解してもらいたい。中央図書館を建てるのと、東図書館を廃止にするというのは確定事項か。
(事務局)確定である。
(参加者)誰が決めたのか。
(参加者)市民じゃない。議会で承認されたのか。
(事務局)計画については、承認いただいていると理解している。今後、例えば除却などは予算が当然発生するので、そのときは予算で議会に諮るということになる。
(参加者)東図書館の廃止も確定か。
(事務局)市としては決定と考えている。
(参加者)本当か。議会で承認したのか。今計画中ではないのか。
(参加者)それなら、今ここの場は必要ないのではないか。
(参加者)私たちは何をしに来たのか。
(事務局)方針として決まっているということだ。
(参加者)ちゃんと市として実際にやるのか、やらないのか。方針として、今、検討しているのか、確定なのかどっちなのか。
(事務局)市としては進める。ただ、当然予算というのは発生してくるので、最終的には、市だけで決定ができないことにはなる。
(参加者)綾部市の駅に近くに図書館ができた当初は、予想外の入館があったと報道があったが、今は閑古鳥が鳴いている。中央図書館を作って、最初は人が来ても、全然来なかったら、誰が責任を取るのか。38億円を国に返して、中央図書館を元に戻して、西も東図書館を元にできるのか。誰が責任とるのか。そういうのも目に見えている。
(参加者)子どもの人数が減っていて、電子書籍を推進している。それで結構大きな建物で、飲食店が入るとか、コーヒーを飲みながら本が読めるような、そういうのが出ていたが、実際そうなるのか。コーヒーでも飲みながら図書館の本を読んでいいのか。
(事務局)一部飲食可能なスペースは検討している。
(参加者)本読みながらお茶を飲んでもいいのか。
(事務局)それはまだ決まっていない。
(参加者)そんなイメージがパンフレットに入っていた。
(事務局)まだ決まったわけではない。
(参加者)それがパンフレットに絵が入っていた。できるのだなというようになっている。そしたら、シミなどができた本はどうするのか。公共の本を。
(事務局)もし、シミができたら弁償をいただくことにはなるとは思う。

(参加者)人が集まって、神々しく、活発で、流動性があって、飲食店が入って、そこでテナント料を取るとか、そういうイメージなのか。本の貸出は、東西のどちらが利用率が高いのか。
(事務局)だいたい同じくらいだ。
(参加者)人口も一緒か。
(事務局)東の方が少し多い。
(参加者)東の方が多くて貸出は同じぐらいということは、東の人はあまり本を読んでいないということか。それがわからないではないか。南も中も置いてあるだけだ。何も聞けない。聞いてもわからない。
(事務局)そうはしたくないと思っている。
(参加者)それなら残していただきたい。勝手に廃止と。東西統一になって、何か小さい字で書いてあって、そのうち図書館がなくなりそうなことで、びっくりして、周りに聞いたら誰も知らない。知らない人ばかりだ。それを、どうして、「広報まいづる」に、こんな写真ばかり載せずに、図書館を廃止する、意見がほしい、そういうことをもっとPRして、小学生や子育ての方から高齢者の利用者まで、全部に意見を聞いて考えてほしいと思う。
(参加者)ここに大きなポスター貼ったらいいではないか。東図書館廃止しますと。
(参加者)賛成の方、反対の方とか。声かけても知らない。利用していない人は、知らない。私があんまり心配しているので、議員が来てくれた。その人は、そんな人が読むような本を私は読みたくないと言う人がいる。手垢がついたような本を借りたくないと言って、こういう人がどんどん推進していたら私達の思いは届かない。
(参加者)あまりにも市民の声を蔑ろにしすぎではないか。こんな場所に集めておいて、もう決まったものだと言われてびっくりした。
(参加者)決まってから議会に出したって意味がない。
(参加者)最初は赤れんがであって、それが初日かどうかわからないが、初めて参加したときにはもうイメージができていて、ここには何があって、庭があってのようなことが書いてあって、それが決定みたいなことになっていた。それで立命館大の教授の先生がおっしゃって、東はエアコンも修理ができない。今、全然、効いているではないか、それとも何年後にも修理ができないと言って。修理もできるのじゃないのか。つぶすことばかりだ。
(参加者)鉄筋コンクリートを30年で壊さないといけなくなるというのは、管理不行き届きだとは思う。普通は60年ぐらい持つ建物ではあるので、整備点検で、なぜそんなことになったのかというフィードバック等は必要だ。
(参加者)もっと古い建物はいくらでもある。
(参加者)まだ新しい。手直ししたら、まだまだ十分使える。
(参加者)福知山の駅の近くに図書館ができて、綾部は、とにかく福知山に負けない、福知山にあるものが欲しい。福知山に温水プールがある。花火大会がある。綾部の図書館は、市民の要望でできたのじゃなくて、市か市長がわからないが、前の図書館は発展的なすごくいいところ

で、つぶす必要もない。福知山は、前の図書館は天井も低く、暗くて、必要性があったから、駅の北口を発展させようという、そこに土地があったのか、福知山の事情であそこが良いというところで、前の図書館から駅前の図書館はすぐ近くだ。車で1分ぐらいなので、福知山市民は、そこが変わっても全然困らない。よいところができたかもしれない。綾部は、単に福知山に負けたらいけないという理由で作った。最初は良かったが、今は閑古鳥が鳴いている。舞鶴もそうなる可能性がかなり高いのではないか。私は西舞鶴に素晴らしい中央図書館ができても通えない。電車もない。「まなびあむ」かどうかわからないが、分館かできたとしても、そんなのは図書館ではない。そこから引いてもらえるわけでもない。とまり木にもなるわけではない。それは図書館ではない。結局は中央図書館を作って他は潰すということは、市民にみんな我慢しろということだ。舞鶴は福知山や綾部に負けない、舞鶴がその気になったら、こんなによいのかできるのだと言うだけのことだ。

(参加者)教授の先生が、千葉かどこかの図書館を手がけられたと聞いた。何件も手がけられているのか。成功したということで。

(事務局)館長をしておられた。

(参加者)立命の教授をしていた。何件も手がけているのか。

(参加者)何件もやっていない。

(事務局)会長とか、協議会には入っておられる。

(参加者)人口レベルとか交通レベルが違う。そういうことを知っているのか。雨が降る、雪が降る。人口が減っている。

(参加者)夜9時まで電気も点いて、素敵なライトアップされた町並みとは違うのだ。西駅でも、早くに暗くなるではないか。

(参加者)資料で守山市の図書館と比較検討していたが、人口規模的には似ているが、守山市はベッドタウンで、京都市の若い人がたくさん住んでいるところだ。年寄りしかいないのと違う。同じようにやられたら困る。私達の大切な税金なので、あまりにも杜撰な計画で夢物語すぎる。その計画の実現性について、私達市民は、それは違うと疑問を投げかけている。設定自体が違う。完全に、東の高齢者と子供たちを切り捨てている。皆さん、今まで長いことたくさんの税金を払ってきている。この人たちを切り捨てるのかという話だ。あなたたちは市民を切り捨てているということを、頭でよく理解してやってほしい。本当に切り捨てられているので、笑いごとではない。

(参加者)計画の発表の仕方が、東西の除却にばかり頭が行く。そういう報道の仕方をずっとされていた。計画作りの中に入れたら、必ずしもそうではない。マスコミの持って行き方や報道の仕方に疑問がある。あれは、全域の図書館サービスをやろうという計画なので、そういう立場からいくと、中央図書館というのは、それぞれの地域館に対してこれだけのサービスをしなくてはいけない、これだけの書庫を持って、その書庫から回していくという作業をしないといけないのだということが、もっと市民にわかるように積極的に説明するという努力に欠けていた

と思う。そういう点からいけば、高機能サービスという方にシフトして、そこばかり言うので、東の市民が置いてきぼりではないかと。しかもそういう風な気持ちがあるところで、5月には東でその説明会をやったが、司書の思いと営繕あたりの思いがちょっとずれているのではないかという気もする。もしもそうであれば、私はパブリックコメントに書いたが、その中央図書館ができる前に、地域館の本を動かすという体制を作って、そこで、それぞれがその目標にしている貸し出し冊数、人口1人あたり6冊ぐらいの貸し出しは出るようにしようという目標を…

(参加者)一人当たり6冊か。

(事務局)今は4冊。

(参加者)そのために、それなりに新鮮な資料をそれぞれ身近なところにおいてサービスすることが必要だということは書かれている。だけど、実際にやるためには、東の図書館がどうなるかということはともかくとしても、東の地域においてそれなりの地域館が必要だという前提で、あの計画は作られているわけなので、それは真面目に遂行していく。そういう立場で例えば市民フォーラムなどが必要なのではないかという点での批判を持っている。その点からいけば、そういうことを理解してもらうためには、中央図書館を作るという以前に、地域館の整備計画を作って、少なくともWi-Fiでオンライン化するというのは簡単にできる。しかし、実際にその本を運ぶための手段をどう作るかというのは、人手でもいるし、そのためのスペースもいる。運行計画もいるということになる。真面目にやって、中央図書館というのは、どの程度の規模、規模感が正しいかという話にいくのがいいと思う。

(参加者)何度も言っているが、皆さん、多分誰も図書館が良くなることは反対していないが、その過程がおかしいと言っている。今言われたようないいアイデアもあるので、ちゃんともう一回市民の話を聞いたらどうかと思う。図書館審議会にかけられていたが、理念自体はすごく素晴らしいと思う。そこは否定しないが、中の資料やデータや予測が、あまりにも杜撰すぎる。こんな経営企画書を出したら銀行はお金貸してくれない。もっとしっかりとした事業計画書があっての事業ならば推せるが、あまりにも杜撰で、こうであったらいいという願望でしかない。司書のみなさん、実際にこうしたらこうなるというデータの積み重ねが必要なので、そういうのをまず出してほしい。あまりにも杜撰だ。こんなものに38億円を使われたくないし、私達の市民サービスを削られたくない。納得できるものをあげてくれれば、良くなることは誰も反対していない。納得できないから、みんな怒るのだ。

(参加者)1年前に、鴨田市長が図書館再編推進係を設置したが、あれは東図書館をなくすという前提で作られたのか。それを聞きたい。

(事務局)図書館再編推進係というのは、直接私が聞いたわけではないが、所管事務は図書館再編を進めていくもので、私が先ほど申し上げた再編には四つの施策があるので、中央図書館を作っていくこと、分館をしっかり充実すること、自動車図書館等で隅々までサービスを届けること、学校図書館など学校をしっかり支援すること、図書館の再編の4つの事務といいますか、事業をしっかり進めていくために存在していると考えている。

(参加者)図書館協議会の会長と副会長さんのお考えのもとでできた係なのか
(事務局)基本計画に基づいて、その計画を推進していくための係だ。
(参加者)図書館計画っていうのは、その会長と副会長さんで…
(参加者)ちゃんと住民も委員をしている。
(参加者)その中でも、東西図書館の除却というのが入っていたのではないか。
(参加者)除却自身は計画のうちか。
(事務局)東西図書館の集約統合というのは入っている。
(参加者)基本方針はいいのだ。それは誰も反対していない。それとハードは関係ない。私たち市民はソフトだけでも実行できると思う。なぜハードとソフトとを一緒にするのか。だからこんなにややこしくなる。
(参加者)みんなは舞鶴の状況を良くしようと思って熱くなっていっているのだ。中央図書館をつくると市は言っているが、現実に知らない人が多すぎる。市はどう思っているのかは知らないが。例えば、東図書館の入口に、「ここは何年には廃止します、中央図書館を考えています」と。それに賛成の方、反対の方に署名をしてもらったらどうか。西図書館にも分館にも。市民の声を聞かないで、38億円国から引っ張ってきた、私たちはすごいだろうと言われても困る。
(参加者)東図書館に署名を置いてくれと言って断られた。それはずるいと思う。こんなふうに市民の話を聞くふりをしておいて、反対署名もポスターも置かせてくれないのはずるいと思う。市民の話を聞いたうちに入らない。
(参加者)利用者の声を聞いてほしい。小学生はどう思っているのか聞いたことがあるのか。紙芝居を読んでいる親子が西舞鶴まで行けるのか。聞いていたら、将来的に司書がいなくなりそうだ。2人から1人になって、いなくなる。最初は良いように持ってきて、結局予算がないので削られるのならば、そんな大きな図書館は必要ないと思う。電子書籍がどんどん普及するだろう。
(参加者)市長はどこかに見に行かれたらしいが、日本には舞鶴より良い図書館があるだろう。去年の5月のフォーラムではこういう良いのがあるという説明だけだった。それなら、その図書館のこういう良いところを舞鶴にはこういうふうに持ってくるという、そういう見解が市長から一言も出なかった。こういう図書館があると。そのまま舞鶴に持ってきたら38億かかると。それはおかしい。
(参加者)言われるように、図書館システムのソフトの方を持ってきてもらって、いい図書館を真似してくれたらいいのだ。箱ではない。
(参加者)舞鶴に、日本にある立派な図書館のこういうところは舞鶴に良い、ここは舞鶴にとって変えなくてはいけないということ、そういう考えが市長には全く見えなかった。
(参加者)基本計画に出てくる図書館が舞鶴と合っていない。規模がそもそもおかしい。基本計画の理念は何も否定しないが。
(参加者)基本計画によその図書館は載っていない。参考資料として載っているが。その中では、

地方の図書館とかいうのは入っている。

(参加者)この図書館の冊数、大きさ、予算から、大体人口何万人規模の図書館に相当するかというのは、大体あるのではないか。

(事務局)大体同人口規模ぐらいの自治体で、利用が多い、実績の多い図書館の大体平均ぐらいだと思う。

(参加者)それこそ守山とか。

(事務局)利用の多い図書館の実績に近い数だと思う。蔵書の冊数などが。

(参加者)ニーズが高い地域の図書館像と言ったところか。年間1,000人ずつ人口が減っている舞鶴市で、今76,000人で、ほぼ30年で仮に図書館の役目が終わると考えると、45,000人ぐらいになっている。30年後の未来を考えると、あまりにも人口規模とこの大きな箱物というのは、つり合わなくなる。そう思わないか。そこが気になる。

(参加者)大きい箱ものを作っていくというやり方はやめてもらいたい。

(参加者)1年前に15冊借りられるということを聞いた。これまでは6冊だった。それは舞鶴市だけ。何か読んでいたら、よそは10冊借りましたと書いてあった。少なかったではないか。遅いのだ。全国的に6冊なのかと思っていた。子供たちは、本を何冊も借りたいのだ。それが遅かったのではないか。急に15冊だから、そういうレベルが違っていた。そういう意味では同等ではない。

(参加者)そんなことはお金をかけなくてもできることではないのか。

(参加者)なぜできなかったのか。

(参加者)お金かけずにできる事業もたくさんあるはずだ。こういう市民の話をいっぱい聞いて、アイデアを出してやっていたら、今のままでも良くなるのではないか。予算だけ倍ぐらいに元にもどしてもらって。

(参加者)それは、鴨田市政で戻った。

(参加者)それでも足りなくはないのか。もうちょっと増やしては。

(参加者)例えば元々30万開架ということで計算がしてあったので、30万開架だが、実質あの計画は20万の開架なのだが、実はその20万の開架というのを常に新鮮に保つとしたら、6年とか7年で新しい本に変えていくぐらいの新鮮度と言われている。

(参加者)新鮮さは今のままでも、予算さえあればいけるのではないか。

(参加者)そういう意味で、その箱に合わせて、一定の新鮮度を常に保つということで言うなら、かなりのランニングコストがいると思っている。

(参加者)今のままの方がいいと思う。

(参加者)そういう意味では、最低限、中央図書館として必要な書庫であり、車を動かす搬送の施設であり、実際にそれを選んだりするスペースという意味で、利用者が使うスペース以上に中でやる作業が増えてくると思う。そういったものを確保して一定の内容は整えないと、そういう意味では、箱物がやはり必要だ。

(参加者)そのことだが、市会議員が言っていたが、東西を維持するよりかは、中央図書館をつくる方がランニングコストがかからないと言った。本当なのか。東西維持する方が、ランニングコストがかかるのか。

(事務局)中央図書館というのは、まず東西二つを一つにして、さらにサービスを上げていくもの。ということは、今よりもサービスを上げるために、司書も増やしていく、本も増やしていくので、単純な比較というのはできない。ただ、サービスを上げていくためには、当然東西図書館の二つの運営よりも中央図書館の方が、単純に考えると、上がっていくことになるだろう。ただし、この東西図書館をこのままで、今求めているサービスをしっかり上げようとすると、人も本もさらに改修というのが必要になってくると思う。そうすると、中央図書館よりもかかってくる可能性はあると思っている。

(参加者)もし、そうなったときには、西か東かどっちかがなくなるというのは、致し方なしだと思う。そこはそのとき議論することであるとは思うが、ただどちらかというと、お金が足りない、人が足りないので、西と東を選んだ末、西を潰します、東を潰しますということなら、何も言わなかった。それを今だったら建てられるみたいな感じでやってしまうという、今しかないような。それに対して20年後に、その人口規模に合った中央図書館をみんなで考えていけばいいのではないかというのは、思うところだ。今、病院問題や給食無償化など、鴨田市長がやってこなかった政策がどんどん出てきている中で、多々見さんはそれをやれない代わりに、四つの病院を残す、給食費無償化をしないといった中で、図書館はやろうという話だったと思うが、鴨田さんは全部やるではないが、病院の統廃合の話が出てきている、給食無償化の話が出てきている、図書館の話も出てきているとなれば、1丁目一番地という、本人が言っている給食無償化、後は医療も逼迫しているのであれば、図書館はその優先順位が低いのではないか。これをやってしまった後に、病院が出てきた、お金がない、どうしようもない未来が見える。

(参加者)そもそも給食費9,000万円ですらない。図書館を作るお金を貯金しているのか。プールしているのか。

(事務局)基金というのは設けてない。

(参加者)5億とか6億とか一般財源で出るわけか。

(事務局)一般財源は5億、概算だが、それは整備期間、今から9年度末まで11年度までの間には、実施することになる。

(参加者)そこから、さらにランニングコスト1億と言っていた。その後は、借金の返済が8000万円ぐらい。そんなお金があるのか。

(参加者)当選した市長なので、ゼロベースで見直してほしい。

(参加者)そんな金があるのだったら、さっさと給食無償化をすればよい。

(事務局)市全体に意見をお持ちなのはわかるが、図書館がやることは優先順位が低いのではと言われるとつらいところもある。申し訳ないが、まだ発言をしていない方にも、時間が決まっているので、発言いただければと思う。

（参加者）東と西を潰して中央図書館を西の駅前につくるというのが、そんな何年も前から計画をされていたことを全く知らなかった。舞鶴市民が知らないというのは、一般的な話で、私だけではないと思う。今日、決まったということに、まずそれを聞いたときに、気が知れないと思った。舞鶴の財政は苦しいのではないか。そんなにお金がいっぱいあるのか。借金があって、医療の方が全然駄目で、常勤医はいなくなるは、縮小するは、事故を起こしたときに全然見てもらえない、京丹後や福知山に行かなければならなくなり、優先順位がなぜ図書館なのか。本離れで、時代の流れで来ているではないか。でも、私は図書館が必要だと思う。身近なところに欲しい。家ではゆっくりできないときでも、静かな、そういった環境の中で、子どもが勉強したりするのもいいし、本も高くて買えないので、借りて読みたいし、身近なところに図書館は欲しい。まず、図書館に38億円という税金をかけ、器を作る。今でさえ、どんどん利用率が減ってきているのに、38億円という税金をかけ、それなのに、市役所の駐車場代を100円取る、ごみ袋代のお金が要る、リサイクルのごみを捨てるのにもお金を取る。何から何まで少子化の予算がないのに、高齢者の年金や後期高齢者の医療費を、少子化の方に出す、そんなことで、税金をどんどん取るのに、もっともっと節約して税金を使ってもらわないと困る。今初めて聞いて、反対というのも何ですが。西の文化公園体育館はぼろぼろだ。雨漏りで何年もずっとやっている。床までずっと雨漏りして、腐っているのに直していない。既存の建物はいいが、それの修理保守を全然やっていないのではないか。なぜつくるのか。自分の家で考えてもわかるではないか。こまめに修繕しなかったら、どんどん修理費がかかる。ここはそんなにひどいのか。私は、十分このままで使えると思う。考え直してほしい。

（参加者）これに参加したのは、今までの協議会や去年のワークショップを踏まえて、次の段階に入るのだろうと思って来たが、全く一からのことだ。広報で「図書館をこう考えている、皆さんのご意見を伺います」という特集で、市民にお知らせしたらどうか。毎回出ていると、毎回同じ話になる。レベル的にも。これでは何の進歩もない。協議会で、先生方や委員さんが、何回も討議したにもかかわらず、その内容が十分皆さんに伝わっていない。あんなことや、こんなことができたらいいなという提案であったとしても、「そういう話があった。ついてはまとめはこうなりました」という話なら、順番を踏まえていると思うが、結論を急ぎすぎているのではないか。もっとソフトの、いろんな意見が出たように、それを十分に練った上で、改めてこんな箱がいるなという共通認識になれば、設計すればいいと思う。同じレベルの話が、毎回出てくる。時間がもったいない。

（参加者）図書館再編の懇談会であるが、こういうところでしか図書館に関しての意見を言うところがない。市役所の投書箱に入れても、署名をしても。反対の署名は市役所に来ていないのか。レベルが違うと言われるかもしれないが、そこまで市民は知らない。全然違うのだ。そんなものを作って誰がその責任を取るのだ。市長は責任を取るのか。

（参加者）今までいろんな方のお話をされていたが、それが新しい図書館をつくるというだけで、東図書館がなくなるっていう前提ではなかった。それを知って、まだ普通に利用している方

が、今ここに来ている。それは困るというのをわかってもらいたい。みんないい図書館は欲しいのだ。何もいい図書館をつくるのを反対しているわけではなく、東図書館を残してほしい、そのためにもっと市民の意見を聞いてほしいと言っている。私たちは署名してもらっているが、ほとんどの方は知らない。それは問題だ。横着すぎる。38億円もかけるのだから、ちゃんとした市民合意をしっかりとってもらわないといけない。しかも、つくることも、東図書館が廃止という前提でやってもらっては困る。それぐらい大変なお金なので、未来の子供たちの借金を残したくない。私達は良いサービスを受けたいが、子供たちが困るのはいけない。あまりにも横着だし、やり方がずるい。なので、今ここで集まって話をして、しっかりと議事録、会議録にしてもらうなり、ちゃんと市民にこういう意見があったと伝えてもらいたい。もっとこういう会があることを公表してもらいたい。オンラインでもYouTubeでもなんでもいいではないか。こういうシーンがあって、それに対応していくという。みんないい図書館が欲しいのだ。それをすり合わせることだ。いきなり、こんなのをつくるから言うことを聞け、というのは聞けない。一緒にいい図書館を作ろう。みんなが納得できる。贅沢なものはいらない。身の丈に合ったものでいい。

(参加者)市民ではないのですが、皆さんの熱い思いをいろいろと聞かせていただいて、計画の進捗も十分理解をさせていただいた。いいコミュニティの場になるものができていけばいいと思う。

(参加者)私、20代の頃の給料が3、4万、5万円のときに、月に1万円以上の本を買っていたが、年金暮らしになったら新刊は買えない。図書館で借りるしかない。図書館だけじゃなく、公民館、公共の建物の中に入っている。トイレだが、年をとったら洋式ではないと座れない。そこを直していくと、もっと利用しやくなる。そんな30億もかけて新しいのを作るのだったら、そういうのにお金を使ってもらいたい。

(参加者)もっと足元を見てほしい。

(参加者)市会議員が来ているのだったら、こういう意見を聞いて、議会で発言してほしい。

(参加者)東舞鶴のマイコムも市が買うとか言い出して、結局買ってしまった。そんなものを買ってもと思い市役所に問いかけたが、1年目は返事がなかった。もう一度、2年目にマイコムの使用状況、使っているのかと聞くと、月極も入っているし、利益は得ていると言った。7,8年前ぐらいのことだが、今、使用もできなくて、壁もボロボロになっている。最初は利益もあると言ったが、もうここ数年で廃墟のようになっている。中央図書館も重なる。耳障りの良い事ばかり言うが、利用料も、利用者も減るし、赤字、税金がそうなるのはやめていただきたい。

(参加者)知らない人が多い。市として、ポスターやそういうところに署名されるとか、東にも西にも分館にも市役所の本庁にも、そういうのを置かれてはどうか。

(参加者)とりあえず置いていいか。

(事務局)それは遠慮させていただきたい。

(参加者)なぜか。

(事務局)まずは、中で確認をする
(参加者)では、協議してもらえないか。
(事務局)中で協議する。
(参加者)提案だが、次回はリモートでもいいので、鴨田市長と話をさせてほしい。
(事務局)皆さんから、利用が尻すぼみになってしまうのではないか、閑古鳥が鳴くのではないかという意見もたくさん出していたが、そうならないように、今からしっかり準備をしていきたい。
(参加者)それだったら今やってもらいたい。
(参加者)利用を増やした実績を作って。
(事務局)利用率を上げていくということで、今頑張っている。
(参加者)それはわかるが、舞鶴市民が図書館に行く率が低いというのは、本が悪いからではなくて、高齢者や子供が来ているのだ。働いている若い人が来ないというのは、生活が忙しいのではないか。
(事務局)そういう方たちにも来てほしい。
(参加者)立派な本を置いたら来るかというと、それは違うと思う。
(事務局)本だけではなく、いろんな要素はあると思う。
(参加者)あなた方が頑張っているのはわかるが、駄目になっていくという考えは全くないのか。中央図書館が西にできて、だんだん利用されないようになるのではないかという考えはないのか。
(事務局)ない。
(参加者)高齢化しているのに、行けない。
(事務局)補助のようなことも考えていきたいと思っている。電車やバスで来ていただいたときの補助ができないかなどを考えている。
(参加者)5冊の本は重たい。電車やバスなんて。
(事務局)東分館の充実ももちろん考えたい。
(参加者)子供が減る、小学校などもどんどん縮小になっていく、病院なども人口が減るので縮小になっていく、図書館も同じことだと思う。そこで努力するのはわかるが、爆発的に増えるのであれば、今、医療はこんなことになっていない、子供はこんなことになっていない。そんな中で、この流れというのはあるではないか。そこに逆行するのは、やはりギャンブルで逆張りだとは思う。税金を使ってやる、しかも収益性はない事業である図書館となると、そこは慎重になってほしい。希望的観測で、新しい図書館を建てたら、人が来るのだというだけではなく、現実的に物事を見てほしいと思う。自分の金でやるのだったら好きにしたらよいが。
(参加者)舞鶴の人口の33%が65歳以上なので、65歳以上の話をよく聞いていてほしい。
(参加者)とにかく税金は公平に使っていただきたい。舞鶴市民に公平に。それをお願いする。
(事務局)たくさんご意見いただき感謝申し上げる。広報が不足しているという現状も聞かせて

いただいた。4月27日、中央図書館をどのような図書館にしたいかというような話をするワークショップも設けている。そちらの方にも都合の良い方はご参加いただきたい。また、アンケートにご記入願いたい。今後もこのような内容で3回開催する予定になっているが、たくさんの方に聞きたいという思いがあるので、本日ご参加いただいた方、傍聴いただいた方は、1回の参加でということでお世話になりたい。

(参加者)2回目以降がなしということは、募集要項になかった。それはないのではいか。

(事務局)今いろいろご意見を聞かせてもらった。たくさんしっかりと聞く場が必要だということを伺った。この4回シリーズは、よりたくさんの人に聞いていただくために、1回としている。今回の4回シリーズについては、今日お越しいただいた方についてはご遠慮いただきたいと思う。

(参加者)後出しルールは駄目だ。こんなおかしい話はない。市民を脅すような言い方はしないでほしい。

(参加者)こういうのは最初から広報でちゃんと言っておくべきだ。それは違う。広報に書いてなかった。ひどい。市民無視だ。

(事務局)「広報まいづる」には載っていなかったが、チラシには記載させていただいている。

(参加者)チラシなんかみんな見ない。みんな一生懸命話しをしに来ているのだ。

(参加者)傍聴もだめなのか。なぜだめなのか。

(参加者)もっと広いところで、50人でも60人でも、入れたらいいではないか。

(事務局)その場はその場として考えさせてほしい。今回については、よりたくさんの方にも聞いていただきたい。

(参加者)傍聴でいい。会場を広げたら、たくさんの意見が出る。多くの人に聞いてもらいたかったのなら、それでいいのではないか。

(事務局)そうするときは、今回15人で約2時間でもギリギリ足りるか足りないか。

(参加者)説明が長かった。45分もあった。

(参加者)次またあるのだろう。こういう図書館にしようというばかりではないか。

(参加者)今日の人数でも少ないと思っている。

(参加者)こんなことで公平公正な議論できるわけがない。

(参加者)市民の意見を表向きは聞いたということかもしれないが、違うのではないか。

(参加者)ひどい。こんなことはない。徹底的に抗議させてもらう。

(参加者)市民を馬鹿にするな。こんな腹が立つことはない。どこまで市民を愚弄するのだ。

(参加者)傍聴がなぜ駄目なのか。そこがよくわからない。

(事務局)会場が限られている。傍聴にも改めて来たい方もいるかもしれないというのが今の考えだ。

(参加者)改めて来られる方は、ここに来る方ではないか。同じことを私が言えば、時間がなくなるのはわかるが、聞くのは違うだろう。それでいいのではないか。なぜ駄目なのか。そのピン

クの紙に傍聴もだめと書いてあるか。
(事務局)傍聴は書いてない。傍聴については考える。
(参加者)その連絡はどうするのか。
(事務局)連絡が必要な方には連絡をする。
(参加者)ホームページにも書いてない。今決めたのではないか。
(参加者)前回は5回あったのだろう。参加ができなかったので、今回参加して、いろんな意見を聞きたいのだ。知らなかったこともいっぱいある。
(参加者)全然話がちがう。4回あると思うので、黙っていた。
(参加者)議事録はとっているのか。
(参加者)それを配ることができるのではないか。なぜこんな話になるのか。
(参加者)こんなことをしているから信用を無くすのだ。38億円。私たちの税金を何と思っているのだ。みなさん長い間、一生懸命、舞鶴のために働いて税金を納めてきた。そういう人たちの意見をなぜこんなにないがしろにするのだ。こんなだまし討ちみたいなことをして恥ずかしくないのか。仕事を休んできている人間もいる。自転車で遠いところから来ている人もいる。そういう市民の声をなぜ聞かないのか。こんなことをするなんて、人としておかしい。情けなくて涙がでてくる。
(参加者)もっと、もっと、みんな話足りない。こんなことだったら、話し合いも何もない。徹底的に反対運動をする。話合いができると思い、いい図書館を作ろうと思って来ている。市民のためにいい施設は必要だと思い、基本計画もいいところがあるからそれを認めてきている。しかし、何とか修正してほしいところがあるが、形だけ。
(参加者)責任者は市長だ。市長の考えなのだろう。
(参加者)変なサクラを呼んでくるな。話もできない。録音も記録もできない。そんな卑怯な手はない。市民をバカにしすぎる。こんな計画がうまくいくわけがない。話し合う気がないのか。
(参加者)傍聴なしというのは、撤回してほしい。4回とも同じ内容というのが間違いだ。
(参加者)結局どうなるのか。ここに賛否を問うような用紙はおいてくれるのか。知らない人が多いのは知っていたか。どうして知らせようとしないのか。この図書館は廃止になると大きく貼る。反対の方、賛成の方など、問いたいと思わなかったのか。賛成、反対が何人いるのかと。利用者の方の声を、司書は聞きたいと思わなかったのか。毎日図書館で貸出をしていて、顔見知りの人が多くいる。西舞鶴まで行ってしまったら、その人たちが利用できなくなる。新しくなるとばかり言うが、不便になるばかりだ。
(参加者)子どもや中学生が来られないではないか。
(事務局)それは申し訳ない。
(参加者)申し訳ないと思うのだったら、なぜそれを言わないのか。
(事務局)それで何とかしたいというのはある。
(参加者)それなら賛否をとってほしい。館長経験がある人ばかりなのだろう。1回2回ではなく、

何度もしないのか。市民サービスにつながると思う。
(参加者)館長は、自分の考えで運営することはできないのか。
(事務局)できることとできないことがある。
(参加者)職業に対してプライドがないような人が運営しているなら、うまくいかない。図書館は、市民サービスを守るという、最後のよりどころではないか。これから市民の生活が苦しくなり、本が買えないという人がいっぱい出てくる。今、本は、文庫本でも、新書でも高価ではないか。だから、みんな図書館に来るのだ。
(事務局)なんとか届けたいという気持ちはある。何とかしたいという思いで動いている。
(参加者)これだったら、何とかしたいが、東の市民は関係ないということだ。東の市民、年寄りは関係ない。サービスを切り捨てる、子供もサービスを切り捨てると言っているのと一緒だ。
(事務局) それで、なんとかしたいと思い、移動図書館などを考えている。
(参加者)移動図書館が行ってどうなるのか。時間が決まっていて3時ぐらい「とくし丸」が来たとか、本屋さんが来たときは行けない。ここはいつでも来られる。ちゃんと店舗があるのだから。
(参加者)市民がサービスに合わせるのではなく、サービスが市民に合わせるのだ。でないと本末転倒。本を恵んでやるから来いというのではない。サービスを受けられない人が、いっぱい出てくる。
(参加者)こういう話が持ち上がったとき東図書館がなくなる、サービス切り捨てられると思わなかったのか。名前だけが中央図書館だと。もっと力を発揮してほしい。それが市民のためになるのだ。司書は館長でいるのだから。
(参加者)市民の文化レベルが思いきり下がる。
(参加者)本は無償で借りるから、図書館なのだ。望んだ人が、まんべんなく無料で借りられるのだ。それが図書館なのだ。図書館に行くのに交通費を払うなんて。交通費をいくらか払って、2往復すれば、文庫本だったら本が買える。そういうことをわかってもらわないと。
(参加者)なぜ命がけで東図書館を守ろうと思わないのか。そこが不思議。
(参加者)毎日子どもの顔を見ていて、この子たちが来られなくなると思わないのか。
(事務局)今来られない人たちのところにも行きたいという思いもある。
(参加者)子供たちが勉強したいと思っても、できないではないか。レベルが違うではないか。
(事務局)勉強は、別のところでできないかと考えている。
(参加者)考えているだけではないか。
(事務局)検討していきたいとは思っている。
(参加者)調べものでこんな本ありませんかと声を掛けている子供たちは、もう聞けなくなるではないか。
(事務局)例えばオンラインを活用して中央館と繋いで。
(参加者)どこで、オンライン繋げるのか。つなげる箱がない。
(事務局)分館にシステムを置くので、それと中央館とオンラインで繋ぎ、中央館の司書とつなぐ。

(参加者)それなら、今でもできるではないか。
(参加者)本棚までいって、本を探しくれるのか。画面だけではないか。
(参加者)それなら今、東西をつないで、司書をひとつにしたらいいではないか。言っていることがおかしい。ソフトの話は、今でもできること。なぜ、そこで東図書館がなくなる話になるのか。ハードの話ではない。全部ソフトの話だ。ハードで困っている話は、今までに一回も出ていない。全部他のことでできる。
(参加者)公共の建物は、全部、西ばかりに行くと聞いている。消防署とか。東は置いておいて、落ちこぼれていくと聞いている。そんな市民が多い。消防署も西へ行く。どういう考えなのかわからない。
(参加者)傍聴はどうなったのか。
(事務局)改めて返事をする。
(参加者)どういう手段でするのか。
(事務局)連絡先を申込みの際に伺っていた。
(参加者)傍聴が駄目なのも不思議だ。
(参加者)傍聴がだめな理由を聞いていない。
(事務局)よりたくさんの方に入っていただきたいという思いだ。
(参加者)そんな15名で限定するのがおかしい。広いところがいくらでもある。
(事務局)今回の4回シリーズは、まずこれで実施した上で、別の形も考える。
(参加者)考えるだけではないか。実行しなければ意味がない。あなたたちの手ではないか。考えますと言う。本当に今、目先のことでごまかしていたらいいかもしれない。そんなことは、やめておいた方がいい。しっかりとここで、市民と向き合うことをやらなかったら、本当にひっくり返る。みんな本が好きだから、図書館のサービスを充実するのは歓迎する。お金のことを何も考えなかったら、中央図書館も賛成したいのだ。東を残すのだったら。でも、いろんなことがないので、無理だろうと思っている。本来そんなことを考えるのは、市民の仕事ではない。
(参加者)司書の仕事でもない。
(参加者)聞くだけではなく、もっと工夫してほしい。市民投票してほしい。
(事務局)まず傍聴については、今日は17日なので、今週中に返事をする。連絡先は伺っているか。もし、伺っていない方がいたら、今、伺う。
(参加者)今日出た意見の返答はあるのか。
(参加者)返答は、こちらへ返ってくるのか。
(参加者)出た意見は知らせてもらえるのか。
(事務局)みなさんに、今日の内容を共有する。
(参加者)市民にも知らせてほしい。
(参加者)いいようにオブラートに包んで出されても困るので、ちゃんとチェックさせてもらう。
(参加者)舞鶴市の冊子ではなく、これ用に東図書館について、こんな意見があったこと大きく出

してほしい。

(事務局)たくさんいろんな意見をざっくばらんに言ってもらうためには、外に出るとなると言いにくいかもしれないということを、当初考えていた。しかし、自分たちが市に対して、言ったことを伝えてほしいと思っておられるのであれば、それを外に出すという方向で考えていく。2回目、3回目、4回目を実施するので、そこに参加する方が今回はやめてほしいと言われた場合は、その会はやめるなど考えたい。

(参加者)それは、公表していいのか、悪いのか、個人で聞けばいいのではないか。

(事務局)この場におられる方はいいということか。

(参加者)どういう意見が出たというところには、名前は出ないのではないか。ならばこの意見が出たと匿名で言われて困る人というのはいないのではないか。それなら聞く必要がない。最初に「市のホームページに出すかもしれないがご了承ください」と言ったではないか。それで全員納得のもと、この場にいる。

(事務局)わかった。

(参加者)その中には、次回以降の参加がないことで、市民が怒っているということを書いてほしい。市民をなめるなということを。

(事務局)ご意見があったということは。

(参加者)こんなひどいことはない。

(参加者)東図書館は廃止ありきで、話が進んでいるのはびっくりした。

(参加者)傍聴ができないとなったら、抗議したい。その抗議先はどこになるのか。

(事務局)抗議先は、舞鶴市図書館課。

(参加者)言いたいことは言った。市長に全部伝えてほしい。

(参加者)高齢者は年金も出るので、税金を払っていないことはない。そのことを考えれば、大きなものはつくれないだろう。

(参加者)一度賛否を問うてもらいたい。知らない人がいっぱいいる。嘆願書みたいなものを送った人もいるぐらいだ。利用者を置き去りにして、勝手にされて、残念だ。

(参加者)図書館のポスターのチラシも箱も全部作らせてもらう。その許可をもらうだけでよい。住民運動になる。忙しいので、そこまでしたくないのだ。おとなしくしているのに、話し合う余地があると思って、図書館は本が好きな人なので話し合えると思っていた。

第２回　図書館再編についての懇談会

1. 開催日時　令和６年４月23日(火)　10時15分～11時15分
2. 開催場所　東図書館研修室
3. 参加者　１名
4. 傍聴者　7名
5. 懇談会の内容
   ①開会
   ②自己紹介(事務局、参加者全員(名前と図書館の思いでについて一言))
   ③図書館再編の説明(事務局)
   ④参加者との意見交換
   ⑤閉会

【参加者との意見交換】

(参加者)以前に司書として他府県の図書館で働いた経験がある。夫の仕事の都合でこちらへきたが、当初は6冊しか借りれず、延長するのも直接窓口のみであり不便さを感じていた。しかし、貸出冊数も15冊に増え、ネットでの予約・延長ができるようになり、どんどん利用しやすくなっていると感じる。新しい図書館ができることを楽しみにしているが、反対する人がなぜいるのか…と考えてみた。司書の立場で考えると、今の図書館を維持しようとすることで人もお金もかかることによって、人材確保や専門書などに手がまわらないから集約したいという意味がわかってきた。だけど、そのほかの人達からすると、東図書館を廃止にして小さいところに移転するっていわれてもピンとこない。そういう人たちに対する「なくなってもいいものになるんですよ」という説明が必要ではないかと思う。老朽化といわれても、見た目にわかりにくく、まだ使えるという人もいる。まなびあむ、商工観光センターと言われても想像できないので、もう少しイメージを示してあげられれば安心できるのはないと思う。小さくすると言われるとマイナス面ばかりが目立つので、もう少しプラス面があるといいと思う。東図書館をつぶすといわれると、インパクトが強すぎて、まなびあむ、商工観光センターと言われても「あんなところで？」としか思えない。あんな狭いところで…と言われる方も多いので、もう少しどんな分館の姿になるのか見せてほしい。今よりもっとよい分館になるということを出してもらえない限り、反対意見はなくならないのではと思う。先日、南公民館へ行ったが、どんな本があるのかわからなくて、職員も一人しかいなかった。あそこにも司書がいて、本が返せたり、取り寄せたりできたらどんなに便利かと思う。分館に本を入れ替えるだけでなく、広くするとか、中央図書館だけでなくお金をかけて整備してもらえたらうれしい。

(事務局)子育て世帯にもサービスを届けるという点で、あそびあむに中央図書館から配架するのはどう思われるか。

(参加者)私は遠いからあまりいけないが、近い人は利用されると思う。ただ、あまり広げると大変というのもある。借りられるところはいっぱいあったほうがいいとは思う。なかなか、子どもを連れて図書館に借りにいけないという人も多いから。

(事務局)貸出スポットはたくさんあったほうがいいか。

(参加者)それはたくさんあったほうがいいとは思う。図書館に行かずとも、その場で借りたり返したりできるといいとは思う。まずは、公民館とか中総合会館とかそこからはじめていって、余裕があれば広げていくことを考えていただければうれしい。これから、移動図書館が充実してくるのであれば、貸出しがなくても読める場があるのならそれでもいいと思う。

(事務局)再編の話は一通りご理解いただけたか。

(参加者)以前から聞きたいことがあった。図書館の装備は自前か？委託か？

(事務局)自前で購入したやつは職員がやっている。TRC で購入したものは、全部やってもらっている。

(参加者)それなら職員さんの手間が大変とか人手がいるということはないか。

(事務局)今のところそれはない。新刊とかたくさん買うとなると、そこは課題になってくると思う。今話し合ってて、どうしていけばいいかなということは課題として考えている。

(参加者)以前の職場では、装備は装備をする部署があった。

(事務局)今は、よくないとは思いながら、カウンターで広げてやっていることもある。装備や修理など、そういうことをお手伝いをしてくださる人がいればいいなと思っている。人気の本はボロボロになってしまうから、早く修理して早く表に出さなくてはという思いはあるのだが…。

(参加者)以前勤めていた図書館では、バックヤードの時間というのを持ってた。カウンターもするけど、バックすることもあるので、時間を区切ってやっていた。

(事務局)新たなサービスの仕方も考えていかないといけないと思っている。どういう職員構成で、どういう対応していけばいいのかを考えている。市民の皆さんの中でも、そういう知識をお持ちの方がたくさんおられると思うので、聞かせてほしいと思っている。

(事務局)司書の資格を持っていても、フルタイムで働ける人ばかりではないし、採用の方法について、考えてもらえたらうれしい。

(事務局)次の司書を早く育てていきたいと思っている。なかなかフルタイムばかりも難しいとも思うので、平日限定とかそういうことも考えねばとは思う。

(参加者)課題解決型図書館といわれると、司書の出番。司書の経験がものをいう。すごく知識がいる。そういう人がなかなか事情があって働けないというのももったいない。ボランティアという形でも参加できたらいいなと思う。課題解決型図書館ということだが、レファ協には登録していないのか。

(事務局)入ってはいるが、公開はしていない。レファレンス対応するとき用に使わせてもらっている。よくある質問とかには役立っている。

(参加者)京都府立の図書館にいたとき、舞鶴の情報を知りたいという人がいた。どうしても地

域の新聞とかは地域の図書館に聞いてほしいということがある。舞鶴のことを知りたいとなったら、地元の図書館のレファレンスということになる。市民の人はそこまで求めてないかもしれないけど。舞鶴市図書館に聞いたら舞鶴のことはわかるというのがベスト。

市民の人はレファレンスって何かとよく聞かれる。たぶん課題解決型図書館といわれても、まだピンとこない人がたくさんいるのではないだろうか。そんなのいらないという人もいる。貸し借りだけできたらいいと思ってる人もたくさんいると思う。こんなこと聞いてもいいのかというようなこと、これはこんなことですよっていうことをもっともっと情報発信していかないとダメかなと思う。

(事務局)図書館協議会という場でもご指摘があった。レファレンスと課題解決というのがわからないと。もっと説明が必要だと考えている。他に、どんなことが図書館にあるといいなと思われるか。

(参加者)子どもを生んでから絵本がこんなにすばらしいものだというのを再認識した。司書にどんな絵本がいいか教えてもらえるとうれしいが、忙しそうなのでなかなか声掛けづらい。今は自分で調べて選んでいるが、絵本の選び方とか絵本の読み聞かせの仕方とか…そういうことを聞かせてほしい。新しいの入りましたよとか、教えてもらえるとうれしい。

(事務所)忙しいといわれるのは申し訳ない。児童コーナーにも一人いて、声掛けながらやりたいとは思っている。

(参加者)児童コーナーをもっと充実させるのならば、司書が一人いてくれるとありがたい。この人がいたら行こうなって思えるだろうし。

(事務局)今は相互カウンターという形なので、聞きづらいという感じになるか。

(参加者)どこで聞いたらいいのかなって思う。聞いていいのかなという気持ちになる。そこに常時人がおられるのなら聞きやすいかも。私が以前勤めていた図書館は大きかったから、レファレンスカウンターがあるから聞きやすかったのかもしれないし、児童コーナーがあったから聞きやすかったのかもしれないが、もしそうなのならば、そういう専属のカウンターがあったら相談しやすいのかもしれない。今は、貸出されているときは相談しにくいし。完全に分けた方が、レファレンスはやりやすいと思う。理想だが。

(事務局)聞いておきたい、言っておきたいということはこれでよいか。

(参加者)子どもが今年から1年生。市の図書館と連携してよい図書室になっていくのならいいなと思っている。学校図書館を充実してほしいという意見も多かったので、お願いしたい。図書室は、学校に行きにくい子の居場所、司書がいることで学校いけるっていう子も多い。そういう子のためにも、小中高の学校の居場所として作っていただけたらと思う。

第２回 図書館再編についての懇談会(傍聴者からの意見聞き取り)

1. 開催日時 令和６年４月23日(火)
2. 開催場所 東図書館研修室
3. 傍聴者 ５名
4. 内容
・10時15分～11時15分 通常の懇談会
懇談会が早く終了したため、傍聴者からの意見聞き取り時間

【傍聴者からの聞き取り】

(傍聴者)やはり話を聞いていると、ハードの話は関係ないと思われる。司書のスキルアップ、ソフト面の充実をしたらいい話、今の図書館の充実をしたらいい話。図書館計画の充実につながるとは到底思えない。今の話の中で、移動図書館とか、分館の充実とかあったが、現予算に計上されているのか。予算関係の話を図書館課にしろというのは難しいと思うので、財政的に問題があるのかないのかを財政課の人に説明してほしい。市民に対して財政的に問題があるので、しっかりと納得していただくべきだと思う。この間から考えていたが、これは多々見市長が考えられたものであって、今の市長の時と状況がまた違う。給食費無償化の話もあるし、医療再編の話も出ているが、まずは市民としては優先するべき予算はどちらの方が先なのか。図書館に出す予算はないと思う。予算書全部見ているが、この図書館を運営するのが非常に心配。図書館の箱を作り、継続的にこの図書館にお金を出せるという見込みが全く見えてこない。財政的な面も不安。分館の話も、移動図書館も、オンラインも、教育も今できる話ではないか。なぜ図書館建設が先なのかわからない。まず、今の図書館を充実させてキャパがあふれるからそのために増やす…それが民間の考え方。先に箱物をつくって客を呼び込むという考えが全く一般市民にはわからない。レファレンスの話も全然できていない。市民に回答せずに、自分たちの都合の良い話しかしない。

(事務局)この懇談会が全て終了後にホームページ等で回答する。ホームページで、皆さんにもこういう質問があったことがわかるように公表したい。インターネットとは別でも何か目につくような形も考えていきたい。

(傍聴者)市民の質問に対して直接回答せずにホームページに回答するのは、回答になっていない。それは一般の常識と外れているのではないか。これから、私の方で市民からの質問をどんどん募集する。私が代わりに質問するので、全部回答してほしい。私の東図書館を守るホームページからも公開させてもらいたい。私達もこんな無駄なお金は払いたくない。図書館は大事だと思うし、出来たらいいなと思う。しかし、現実的にまず財政力ないしできないし。実際東図書館がなくなって困る人がいる。その人たちの気持ちを考えることができないのか。

(傍聴者)マイコムも西武農場も、買わなくていいものを買って、あんな状態になった。結局市民の負担になっている。あの時も、つぶれることはない、利用者がいるから大丈夫といわれてたけど、結局こうなった。分館では、司書の恩恵が受けられない。どこに本があるかもわからない、時間がないとき

に探してほしいときがあっても、オンラインで教えてくれるのか。探してくれるのか。理想郷ばかり言われるが、できるというのであれば、すぐにでも全部インターネットで貸し出しできるようにしてほしい。車で回ってほしい。分館になることについて司書はどう思っているのか。

(事務局)どんな分館がよいのかということはもっと考えていかねばならない。分館にも司書がいるという方向で考えていかねばならないと話を聞いて思ってはいる。図書館基本計画に基づいて進めているので、その方向で進めていきたいと考えている。

(傍聴者)私達は切捨てられる。今までも、いろんな施設のことも、耳障りのいいことばかり言って、結局ああなる。市がやるもの全部。閑古鳥が鳴いている。責任とれるのか。

(傍聴者)司書の後継者もいない。

(事務局)一人新規採用もふえた。今後増やしていきたい。

(傍聴者)大きい声をあげたが、必要だから言っている。わかってほしい。

(事務局)そういう思いの人たちが、東図書館のエリアにおられることは承知している。そういう方々の声を聴くのが一番心苦しいとは思っている。

(傍聴者)国は、交付金をちらつかせてどうだ、どうだと言っているがそういうものはいらない。コンクリートは50～100年もつとプロが言っている。それなら、今の施設使える。残してほしい。

(傍聴者)国の税金も使うということは、相当の覚悟を持ってやってもらわなくてはいけない。

(傍聴者)人口も減っている。電子図書も導入されている。大きい図書館などいらない。

(傍聴者)ある程度目標が達成できて、成果ができたら建設したらいいのではないか。

(傍聴者)1回目の人と今の方と(市の対応が)不公平。今度の文化会館でやる話もまだ早いのでは。このもらったワークショップのチラシには、現在進めている図書館再生の経緯や方針について市民の皆さんに説明し市民の皆さんに説明すると書いてあるが、もう説明することは決まってるということ。そんな馬鹿な話はない。

(傍聴者)守山に視察にいかれた件。税金使って視察行って、これでこの程度かと。視察にいくのではなく、分館がどういう状態なのかをもう少し勉強するべきではないかと思う。

(傍聴者)市民の目線に立って、建物を建てるのではなくて、今の規模と司書の数をふやしほしい。西に図書館はいらない。そんな所には行けない。

(傍聴者)中央図書館に行けないという人にどういう対応するのか。

(事務局)今考えているのは、バスの補助をするとか。直接来れなくても、遠隔のレファレンスや、近くのサービスポイントで貸出返却できるようにするなど考えている。

(傍聴者)自分で本を探すのが楽しいという人たちにどう応えるのか。

(傍聴者)手に取って選びたい。持ってこられたものを読みたいわけではない。選ぶというわくわくする気持ちがわかるのか。

(傍聴者)忙しくて来られない人が多いが、同じこと考えている人が多いのが実態。そういうのがわかっているのか。

(傍聴者)この計画ができた2年前の8月ごろ。審議会から答申がでた。その答申に対して、説明会があった、不十分であったが、それからパブリックコメントがあった。私もいくつか意見を出した。基本計

画を作るための調査としては1千万円だした価値はある内容であったと思う。その中から、現在の分館の実態ということも書いてる。これはなにかしないといけないよということ。一方で高度なサービスをするために中央図書館がいるよ…ということが出てきた。平成22年の時点で、図書館基本計画ができる兆候があった。その中で分館の問題とか、図書館の充実とか、図書館協議会を作るとかという提案がされている。その議論がもう少し深まっていけば、図書館の基本計画ができるはずだった。その後、図書館購入費が半減したり、教育部局から市長部局へ移管になったりというような雑な扱いを受けてきた。過去の経過の中で、図書館協議会において、図書館計画を作るべきだと決まったので、私としては、きちんとした流れを経てできたものだと思っている。東西間を整理する、減らした図書費を元に戻す、そういったことをするための一つの指針になるということで、図書館基本計画をすすめていくということは支持していた。図書館を立て直すための一つの方針が図書館基本計画であると。ではその、38億円の建物が必要かということまでは、私にも正直わかっていない。しかし、一定の建物が必要であることもわかる。それで市長が変わって、前市長の時代にできた基本計画を新しい市長がどうするか。パブコメで出た質問に対する回答も生煮えのままだったので、昨年度のワークショップでは、もう少しその辺について話すべきだったと思う。計画の中では、「まなびあむ」は適さないと書いてある。今年はその議論から初めてほしいとは思う。そういう流れが飛んで行っている部分がある。議論のポイントが何なのかというのを整理してほしい。図書館というものは住民と話し合って作っていくということが書かれている。議論し残している部分があるなら出し合って、お互い埋めあうような作業をしてほしい。

そういう経過がわかっている人といない人の差が大きすぎるとは感じる。私は東図書館を東分館にするのは別にいいと思っている。それぞれの分館の貸出冊数の目標をどれくらいにするのか、それを実現するような分館になるのか。例えば、一人あたり6．5冊とするのなら、それはどんな状態になるのかなど、そういう話が必要。

(傍聴者)一人何冊という目標によって、南公民館が図書室がどのくらいの大きさが必要なのかがわかるということか。

(傍聴者)順番を逆にしたらよい。図書館を建てるのではなく、まずは、分館の充実。できることを先にやってみる。

(傍聴者)雑誌が多すぎる。新書を買ってもらえない。半年待ち。半年後にリクエストだしてといわれる。

(傍聴者)1年にどれだけ本を買うのか。

(事務局)雑誌については、雑誌スポンサー制度っていうのがある。雑誌の費用を負担するために事業者さんから、費用をだしていただいて、広告を代わりにのせるという制度。

(傍聴者)雑誌じゃなくて、新書を買ってもらえないのか。1年待ってやっとリクエストがくるような状態。新書のほうに回してもらえたらいいのでは。

(傍聴者)予算は東も西も一緒か。

(事務局)がんばって予算増やしてほしいということは要求してきた。雑誌は、広告が載せられるのでそういうシステムを導入している。新書に対しての制度はいまのところない。

(事務局)東西合わせて R4 実績で 2,500 冊。
(傍聴者)少ない。それでは満足できない。中央図書館になったら、年間でどのくらいに買う予定か。
(事務局)開館から 5 年後の目標として年間 4500 万円としている。
(傍聴者)本の管理情報をネットで管理する。利用を DX にするということか。
(事務局)システムにつないで、ご希望の分館から分館へもっていくというようなシステム。
(傍聴者)何度もいうが順番が逆。司書の教育のために、自分たちの税金を使わねばならないのかと思う。今までがさぼってたのではないか。
(傍聴者)小中高生に賛否聞いては。
(傍聴者)絶対必要なら、誰も反対しないと思う。
(傍聴者)東図書館があるうちから、そういうことやって安心させて示してもらえたら誰も何も言わない。バスの補助も確約してほしい。
(傍聴者)バスを補助するなんていうのは、今だけ。絶対なくなる。西の市民会館がつぶれた時にも同じようなことを言っていた。
(傍聴者)綾部の図書館が、中学校上がるまでの子をターゲットに子育て支援に特化した施設。中学校あがるまでの子で読書好きの子を作る施設にしてはどうか。ターゲットをもっていくのならば、僕らもなんも言わない。福知山の三和分館、綾部市の図書館へ行って研究してもらいたい。
(傍聴者)大事な時期に図書館がないというのは大きなことと思う。わざわざ図書館に親についていってと頼まなければならないのは不便。
(傍聴者)東図書館がなくなることをもっと周知して。幼稚園から高校生まで。結局、名前だけでなく、西舞鶴に取られたという気持ち。中央というなら中舞鶴に作ればいい。駐車場もお金とるのか。JR利用者と図書館利用者はわからないから。
(事務局)駐車場はどうなるかまだわからない。
(傍聴者)そういうことか。市の魂胆がわかった。
(傍聴者)まなびあむみたいに有料になるのか。図書館なんて何時間もいるのに有料にされると困る。
(傍聴者)図書館は無料の原則ということを知っているのか。東の人間からしたら、実質、有料になるということ。法律に違反している。
(傍聴者)この先何年車にのれるかわからない。外に出られなくなったときの方が、図書館を利用することになると思うので、もっと身近なものでないと困る。
(傍聴者)とにかく身近にないと困る。南公民館くらいでは話にならない。まなびあむに少しだけ本をおかれて、司書もいないとなると、恩恵がうけられない。
(傍聴者)あそこだけでおいてる本はすごくわずか。一定の期間で新鮮に入れ替えていくのが必要。全部中央図書館で管理して、入れ替えていく。読まれなくなったのは中央図書館で保管、本をぐるぐる回すというのがいいと思う。そういう形で、分館自身の鮮度をあげるということは必要だと思う。こういうことが必要と思うと私は提案した。分館を充実させることは必要と思っているが、わたしは中央図書館建設に反対しているわけではない。
(傍聴者)私も中央図書館建設に反対といっているわけではない。東図書館を存続すべきだと言って

いる。中央図書館があんなに大きいものが必要ないとは思っている。

（傍聴者）この図書館が、舞鶴が堕ちていく原因になる。舞鶴市民の生活がぼろぼろになる可能性がある。舞鶴市民に対して最後のとどめをさす可能性がある。失敗したときの財政負担がすごい。それを覚悟してやるという自覚をもってほしい。

第3回 図書館再編についての懇談会

1. 開催日時 令和6年5月10日(金) 14時～16時
2. 開催場所 東図書館研修室
3. 参加者 6名
4. 傍聴者 6名
5. 懇談会の内容
   ①開会
   ②自己紹介(事務局、参加者全員(名前と図書館の思いでについて一言))
   ③図書館再編の説明(事務局)
   ④参加者との意見交換
   ⑤閉会

【参加者との意見交換】

(参加者)先程いろいろ説明していただいたが、新しい図書館開設費用それは国庫補助金ということか。今回の国庫補助金がどういう形で、要綱がどういう形になっているのか、東西の図書館を廃止するという条件で新しい図書館を作るということになっているのか。その辺が知りたい。西駅交流センターのホールは、夏は30度くらいになるため、前回直すように申し出たが全然直す動きはない。古い施設ももっと活用してほしいが舞鶴市としてはできていない。新しい図書館はどうなのか心配。

(事務局)補助金については、今基本設計を行っており、設計以降の整備に関しては令和 7 年度からなので今からの申請になる。今から活用する補助金については、集約統合というのも一つセットになっている。集約統合に伴う中央図書館に対しても補助金が可能であり、東西の図書館の廃止に対しても、今ならその補助金を活用することができる。そして 2 点目。古いものもしっかり活用していくべきということについてはおっしゃる通り。放っておくわけにはいかない。今年度から公共施設マネジメントをしっかりしていこうという計画を立てるところで、各施設の現状を調べたり、今後どうしていくかを進めていくところ。西駅交流センターの修繕についても担当課に伝えていきたい。

(参加者)図書館は身近なところにあることが一番重要だと思っているので、大浦にできることはいいと思うが、東が縮小になるのはあまりよくないと思う。鴨田市長になってから、給食の無償化などの継続的に支出されるような政策がとられている中で、大きな支出をするのは今のタイミングでやるより、もう少しスパンを持ってからする方がいいのではないかと感じる。建設予定地が水がつく場所であることも気になっている。福知山のような複合化施設にするようなことも考えつつ、もう一度見直しを考えることが必要ではないか。

(参加者)分館の充実と言われているが、全然充実とは思えない。分館の充実というのならば、今の東図書館を残すか、今の規模で新しいところを確保してほしい。そのための運動を盛り上げていきたいと思っている。舞鶴の文化の部分をもっと考えていただき、図書館本来のあり方をもう一度考え直していただきたい。課題解決型じゃなくて、みんなが利用できる図

書館にしてほしい。オンライン化や移動図書館は新しい図書館ができる前からできるはず。そういうことも順次取り組んでいき盛り上げてほしい。

（参加者）選書はだれがしているのか。そこに市民が入れるのか。市民の要望・希望の本はどうして決めているのか。

（事務局）選書は、図書館の職員、司書で行っており、市民の方は入ってもらっていない。選書基準を作っており、それに基づいて選書している。また利用者の方から聞かせていただいた意見や、問い合わせがあったけれど置いていなかった分野についても意識して選んでいる。あまり来られない方の声をどう拾うのかが課題ではある。

（参加者）選書の過程に市民を入れてほしいということを言いたかった。検討願う。

（参加者）この中央図書館の話は、誰が必要といいだしたのか。市民が言い出したのではない。市か勝手に考えただけ。それなのに計画が決まってから懇談会をするというのはおかしな話。懇談会をして市民の意見を聞きましたというのは、市民を馬鹿にしている。スポーツに力を入れるのも結構だが、市の文化にも力を入れてほしい。

（参加者）もっとニーズを把握して、場所を含め考えてほしい。舞鶴市の文化水準が大変なことになる。

（参加者）市の政策はこれで行くと決まっているのか。

（事務局）中央図書館の整備は決定事項である。

（参加者）分館は、今の図書館より程度が落ちるということか。

（事務局）今の図書館と比べると本の数、人の数、面積も少なくはなる。中央図書館を中心としたサービスを考えているので、分館は、その周辺のサービス拠点と考えている。本が少なくなっても、新しい本を回したり、相談が遠隔できるようにするなど、サービスが落ちないように考えていきたい。

（参加者）東の図書館はなくなるということか。今までなぜ東西に分かれていたことを考えたのか。先人が続けてきたことを何でも否定するのではなく、いいことは続けていくべきだ。市民に対して行政サービスは平等であるべき。東図書館がなくなるということは、東の人間が切り捨てられるということ。行政サービスの格差が生まれている。これは人権問題だ。

（事務局）図書館再編については、東、西だけでなく、加佐、大浦も含めて市全体をサービスするものとして考えている。そのために分館でのサービスはもちろんのこと、届かないところには自動車図書館、学校の支援をすることで、市全体に対しての図書館サービスをしていくことで進めている。

（参加者）舞鶴は複眼都市。「全体」という考えがおかしい。舞鶴は東西があることを忘れてはいけない。

（参加者）図書館を建てること、サービス内容を検討することはいいことだと思う。駅前に建てることも悪くない。しかし、駅前を選んだのならば、この町をどう発展させていくのか、そのためにどう活用していくのかということを考えるべきだ。それを無視して図書館を作る話ばかりしているのは違うと思う。図書館は身近なところになくてはいけない。文化会館などとは性質が違う。東の図書館がなくなる、縮小になるというのは、東の人達にとって納得できないことであるということがワークショップを通じてよくわかった。

（参加者）中央図書館ができることに賛成という思いで参加した。利用者をもっと増やしてい

きたいということだが、関心のない人にも広げていこうというのは、教育の場が大事だと思う。学校との連携を重視してほしい。用地購入費の6億と書いてあるが、北側の用地はどのように利用していくのか。駐車場になるわけではないのか。

(事務局)緑地としての整備を考えている。駐車場としての考えもあるが、今はまだ検討中。

(参加者)買い戻すと聞いたが。

(事務局)土地開発公社が持っているところを買い戻す。

(参加者)世界情勢の関連で当初予定していたよりも金額がすごくアップしている。そのあたりは問題になっているか。

(事務局)それも課題だと思っている一方、補助金を活用して行う事業でもあるので、できる限り一般財源…補助金の対象にならない部分はないようにということは考えている。その辺は設計業者と相談し、金額を把握しながらしないといけない。45 億になりましたとかにはならないようにしたい。

(参加者)状況を見ながら、場合によっては値上がりもあるということか。

(事務局)その判断は必要になってくると思う。そのまま進むのか。それとも何かを落として範囲に収めるのか。

(参加者)さきほど回答がなかった人権の話。格差を生む、行政サービスの格差を作るということは、それは人権に関わる。西があがって東がさがる、それが人権問題。どう考えられるか。

(事務局)行政格差を生まないようにしていく。分館の充実、市全域のサービスを行っていく。自動車図書館をまわすことで、サービス全体が落ちないように努めていきたい。

(参加者)東は廃止で、西は残すのか。

(事務局)東西図書館ともに廃止する。

(参加者)東図書館を残してほしいという市民の意見を言っているのに、なぜ聞いてくれないのか。分館のイメージも明らかにしてほしいといっているが、なかなかそれが見せてもらえない。市民の意見を聞いて、計画を変更してほしい。分館の姿も見せてくれないと誰も納得できない。

(事務局)東図書館はバックヤードも含めて大体 1000 平米。開架書架だけで言うと、400 平米ほど。単純に 10 分の 1 という考えではないが、新たな分館を既存施設に入れるとしたら、トイレや管理室等、そこは不必要だと考えている。

(事務局)開架スペースは一定確保することになると思う。そこを管理部門として使うことはない。中央図書館からも新しい本を月 1 回届けていく構成にしているので、それ用の棚を置く等、これから検討し、開架スペースは管理や作業に使うことは全く考えていない。

(参加者)そういうことを全体的にみんなでわかるようにしてほしい。本は新しくしてくれるのか。古いものは処分か。

(事務局)例えば観光情報や、医療情報、法律情報等、どんどん変わっていくものについては新しいものでないと役に立たない。あとはベーシックに置かないといけない価値があるものや郷土資料、そうしたものと、その資料ごとに判断をしていかないといけないと思う。そのあたりで古い本が全くないことはないと思うが、新しい情報を提供できるように考えている。

(参加者)38 億円の予算をかけて、図書をどんどん増やして利用はどれだけ増えるのか。

(事務局)中央図書館再編後、中央館に来ていただいた利用の分もあり、また分館もネットワー

クで繋いで、どこの分館でもどこの図書館の本でも受け取り返せる形を今から考えている。併せて自動車図書館で出かけていって、そこで利用していただくのも、利用の一つにあるので、一つの建物だけの貸出ということでなく市全体として伸ばしていく。回転率をあげていく。借りたところで返さないといけないということがないように、それはぜひ実現したい。

（参加者）なぜ東図書館は残せないのか。残すのに何か支障があれば聞かせてほしい。この建物を直すための運動をしたい。

（事務局）まず、中央図書館に人と資料を集約し統合することで中央図書館からサービスを回すという考えがあり、その場合、今以上に人員も増やす必要があるため、それに伴って東西図書館は廃止する。残した場合、今後、必要となってくる維持管理費や除却にかかる費用というものに対し、今であれば補助金を活用して除却を進めることができる。

（参加者）文化の問題はお金の問題ではない。お金はかかる。コストカットで見ると産業と文化は落ちる。今まで歴史的に2つに分かれていたのだから、今までどおり平等でいい。それを金が欲しいという理由では文化が作れない。文化は金ではない。

（参加者）市長が決めるものでもなく、市議会が決めるものでもない。主権者は私達市民。こういう希望があるということを聞いて一度立ち止まってもらい、市民の意見を反映した図書館にしていただきたい。知恵を絞ってもう一度考直していただきたい。

（参加者）こういう場に、もっと決定権を持った人間がでてくるべきだ。市長も現場にきてこういう声をきいてほしい。

第3回　図書館再編についての懇談会(傍聴者からの意見聞き取り)

1. 開催日時　令和6年5月10日(金)
2. 開催場所　東図書館研修室
3. 傍聴者　6名
4. 内容
　・14時～16時　　通常の懇談会
　　傍聴者からの意見聞き取り時間

【傍聴者からの聞き取り】

(傍聴者)この場だけでなく、市民の意見として反映してもらわないと困る。今、署名が60人ほど集まった。東図書館がなくなることをほとんどの人が知らない。以前から、東図書館がなくなることを紙で貼りだしてほしいとお願いしているが聞き入れられない。先日のワークショップで建築家や教授も来られていたが、東の図書館がなくなること、司書がいなくなることを知らなかったと言われた。周知が出来ていない。市だけで決められては困る。ワークショップの回数ばかり伸ばしても、みんなの意見を聞いたことにはならない。きちんと周知して。どう改善するのかを考えてもらわないと、意見が無駄になってしまう。周知のチラシを貼って知らせればいいではないか。それに、中央図書館ができても、車を運転できる人はいいが、車が運転できないから私達は困る。自転車でも行けない人も困っている。それでいいのか。耳障りのいいことばかりいう。市民サービスの向上になっていない。みんな手に取って本を見たいと言っている。サービス向上というのなら、今すぐにでもトラックを走らせればいいではないか。分館でも返せるようにしたらいいではないか。

(傍聴者)今言われている分館のオンライン化や、移動図書館はこの新しい図書館が出来上がっていなければできないのか、それとも前にやろうと思えばできるのか。

(事務局)今年度は、まず本を選んでデータ化していくことを考えている。東西の本しかデータとして持っておらず、あと三つの分館の本が調べられないので、今年度はその三つの分館の本をデータとしてパソコンに登録していく。選んだ本にバーコードを貼り、それをシステムに取り込むという作業をやっていく。

(傍聴者)新しい本の購入がいつから始まるのか。

(事務局)昨年度から予算が戻って、少しずつ買っているが、今年度も枠を取って通常分からプラスアルファで選んでいこうと思っているが、来年度以降図書費を増やしていきたい。

(傍聴者)トラックでの貸出、今すぐできるのではないか。

(事務局)データ化したものなら行ける。

(傍聴者)公民館と同じパターンでできるではないか。ハンコを押してカードに何日返却と人が言うだけのこと。わざわざトラックでバーコードをしなくでもいいではないか。待っている人はいっぱいいる。それが机上の空論だと言っている。

(事務局)公用車で運べる範囲では遠隔地の小学校へ今運んでいるが、それを徐々に増やしたい。今、図書館の軽で乗る分全部済んで月に1回職員が運転して運んでいる。

(傍聴者)それは初めて聞いた。全部を知らないから。
(事務局)そういうことをしているが、ちょっと地道で少なすぎるので、増やしたいと考えている。
(傍聴者)オンライン化はいつになるのか。バーコードをつけたらすぐできるのか。
(事務局)今年度は予算がないので来年度以降になる。今のシステムを使い続けるかという問題もある。各館に図書館システムを入れないといけない。その予算が今年度はついていない。来年度以降要求していく。
(傍聴者)移動図書館の自動車は、それは車さえ買えばいつでもできる。それはいつになるか。
(事務局)それは予算がまだ。あればできる。
(傍聴者)今の話は、基本的にハード。その施設の問題ではなく、ソフトというか機能の問題なので、やろうと思えば先にできる。どんどんそれはやっていってもらった方が特に大浦の方とか。
(傍聴者)それは先行してやろうと思えば、お金さえつければできるので、その辺は少し考えていただきたい。こういう意見をぜひ反映していただきたい。せっかくの機会を設けて来て言っているので。
(傍聴者)貴重な意見なので市長まで言ってほしい。考え直してもらいたい。先人の文化、受け継いでもらいたい。
(傍聴者)今、市の考えている分館はどれぐらいのものになるのか。
(事務局)100 から 200 平米。
(傍聴者)10 分の 1 とか 9 分の 1。話にならない。反対で当然だ。
(傍聴者)隣の部屋の雨漏りを早く直して使えるようにしてもらわないと、夏場はむしむしする。きちんと予算を取って対応してほしい。もったいない。
(傍聴者)先に中央図書館ありきで、あとはどうでもよいのか。
(傍聴者)さっさと直して皆に開放できるようにしないと。
(傍聴者)まなびあむで高齢者の利用は出て行けと言われている。そういう交渉している。舞鶴市は。図書館のカウンターが入るので、それまでに出て行って欲しいと言われている。舞老連とかが、行事や卓球をするところ。噂で聞いた。
(傍聴者)まなびあむの今の図書室、どこを予定しているのか。
(事務局)そこも一つ候補であり、前の入ってすぐのところで勉強できるようにするなども考えている。
(傍聴者)それが 1 時間 100 円か。そういうことを知らせてくれないと、夢のようなことばかり言って、それが市民にとって大事なのではないか。市民は車で移動なので、3 時間 4 時間なんて図書館にいる。
(傍聴者)図書館の駐車料金はやめてほしい。
(傍聴者)1 回目の時に質問をしたが、図書館の耐震工事でお金が出ないのか。
(事務局)大規模に長寿命化改修するとなると、今のところ補助金はないと思われる。
(傍聴者)亀岡市の図書館耐震工事したのを聞いてみると、1 億 8000 万円中、1 億 6000 万出したという話をした。
(事務局)確認する。

（傍聴者）残すのに十数億かかるのが理解できない。なぜ残すと建て替えより維持の方がお金がかかる話になっているのか。十数億の話は市長も言っていた。その内訳出してほしい。何に対してそこまでかかるか市が見積もって、市長もずっと二つの図書館を残すと十数億かかるから新しいのを建てると言っているその十数億の見積もり、内訳出してもらわないとわからない。

第4回　図書館再編についての懇談会

1. 開催日時　令和6年５月18日(土)　10時15分～12時15分
2. 開催場所　東図書館研修室
3. 参加者　７名
4. 傍聴者　10 名
5. 懇談会の内容
   ①開会
   ②自己紹介(事務局、参加者全員(名前と図書館の思いでについて一言))
   ③図書館再編の説明(事務局)
   ④参加者との意見交換
   ⑤閉会

【参加者との意見交換】

(参加者)東図書館についてのイメージができなかったが、新しい図書館は前向きな気持ちで取り組んでいることがわかった。自動車図書館についてもっと知りたい。2024 年問題により運送などに打撃が出ているが、新しい計画に影響はないのか。

(事務局)自動車図書館は、どういう形で運営していくか具体的には決まっていないが、基本的には運転手さんと司書が同行する。運送業に依頼することは考えておらず、司書が同行することで各地のニーズを把握したい。また、毎日巡回させるものと、中央図書館からセットで本を運ぶ 2 パターンを想定している。どちらも業者に任せっきりではなく、利用状況と分館の状況を把握しながら進めていきたい。

(参加者)再編の話がでたのは、利用者の低迷や貸出冊数の減少が一番の理由なのか。建物が老朽化していても、貸出が伸びれば再編の話はなくなるのか。やはりいずれは中央図書館化されるのか。

(事務局)平成8年から図書館の利用が減ってきていることが発端。この課題を受けて協議会が発足し、再編の提言を受けたのがはじまり。貸出冊数が仮に増えたとしても、今の図書館では所蔵冊数に限界が来ているので、両館を大きくするか、中央館を建てるのかについての議論は必要。

(参加者)今から利用者が増えたらこの考えが変わる可能性があるのか。

(事務局)所蔵冊数に限界があり、サービスについても東西分かれたままでは司書ができることに限界がある。それを解決するために中央でコントロールできる図書館が必要になる。サービス向上のためには、中央図書館が必要。

(参加者)内容はよくわかったが、数字がなければ利用者がどれくらい減ったのかわからない。地域の年齢層はどれぐらいかもわからない。電子図書館をやっていることに驚いた。ただ、福知山は評判がいいが、なぜ舞鶴市は図書館としてもっとアピールしないのか。中央図書館

がハブになるイメージはよくわかるが、今ある箱物でウェブを使えば達成できるのではないか。Zoom で相談窓口を作るなどネットワークに予算をあてるべきで、中央図書館に多額の税金を使うべきではないと思う。また、東図書館がなくなるのはとても残念なので残してほしい。

(事務局)電子図書館は舞鶴市も導入している。課題としては、1 冊あたりの料金が非常に高い。普通の本ならば 2000 円で買えるものが 5000 円ぐらいする。特に人気がある本は制限がかかっており、50 回借りられたら権利がなくなったり、2 年間で権利がなくなったりする。舞鶴市としては、限られたコストの中でできる限り小学生や中学生のための本を重点的にやっている。学校で配布されるタブレットで朝読書などができるように。今の段階では 2 年間で切れるものは 10 年間を想定すると 5 回買い換える必要がある。しかも 1 冊あたりが高いという点では、今は電子図書館に力を入れるというのは少しまだ早いのかもしれない。また、本は実際にその場で読んで選びたいという声が非常に強くあり、これからも紙の本はなくならないだろう。そのような声にこたえるために、資料をたくさん保存するのは図書館の使命。そのためには大きな書庫が必要であり、中央図書館の規模を確保したいと考える。

(参加者)それなら東図書館を残して、センターのような部屋を一つ作れば、司書さんがそこに勤めてメールで繋げられるのでは。新たに中央図書館をつくらなくても、循環するなら置いておくだけでもいいのではないか。そうすれば、雇用にもなる。

(事務局)そういったことも考えられるが、今は東西に分かれている司書を集約することで効率をあげる目的がある。おっしゃるとおり、職員を増やせばいい運用はできるかもしれないが、舞鶴市としては中央図書館から市全体にサービスを回していく計画。まずは中央図書館に集約、分館の充実、さらに自動車図書館を動かすということで始めていきたい。いきなり司書を増やすのは難しい。

(参加者)例えば窓口だけでも作ってみて。機能できるかどうかもわからない。これでは絵に描いた餅だ。そういうことをやって数字を出した上で、必要があるというエビデンスを出すことが必要。国がそういう動きなので理想はわかる。また、都市型と地方型でも全然違う。どんどん人口減っている。絵本なんかは実際に見て手に取ることが大事。

(参加者)素朴な疑問として、人口減の問題もあるなかで、分館なども入れてお金はどれくらいかかるのか。ランニングコストについても書かれていない。本を配送するということはガソリン代がかかる。これだけのことをしようとすると、将来的に負担がかかる。中央図書館から全市域にサービスをするということだが、それなら分館にはなにがあるのか。子どもは本に触れて「面白いな」と思うから借りる。分館に行っても本がないのであれば、子どもの足は遠のくのでは。利用者の低減についておっしゃっているが、本が西の図書館にしかないなら今よりも利用者が少なくなるのでは。

(事務局)現在、東西図書館はシステムがつながっているが、分館とはつながっていない。今回の再編にあたって、すべての分館と中央館をつないで、本の予約や受け取りがどこからでもできるようにする。子どもの本については、学校図書館の支援も大きな柱にしている。

（事務局）人口や将来負担の問題はおっしゃるとおりだ。一方で将来の人たちのためによりよい図書館を作っていこうというのが今の考え。

（参加者）それは素晴らしい計画だと思う。ただ、これだけのことをやる前に、まだ試せることがあるのではないか。また、分館に本はないのか。

（事務局）所蔵数は決まっていないが本は置く。東地区にはどのような本が必要かを含めて計画していく。

（参加者）それなら今のままでも十分。言葉は悪いが、コストがかかるのであれば、そんなものいらない。それなら今すぐにでもできないのか。

（参加者）将来のビジョンがあまり見えてこない。私は医療関係者なので感染などの施策を行っているが、本を回せば、それが感染源になってしまう。どの年齢層をターゲットにして、どのような運営をするか踏まえた上でシステムを考えていくことがこれからは必要。立派なものができても、中身がスカスカでは意味がない。図書館には中高生も集まるが、西にできたら東の中高生はどうするのか。分館に子どもたちが行くようになるのか。

（事務局）平成 30 年から図書館協議会でこれからの図書館について検討していただいた。その中で子どもと高齢者の利用に傾いていて、働く人たちが利用していないというご指摘があった。それから、東西図書館の周辺の地区にお住まいの方の利用はあるが、加佐や大浦など図書館から離れた地域の利用が少ないというご指摘もあった。今の計画ではターゲットを全世代全市域の方としている。今まで図書館を使っていなかった人にも必要とされる図書館にしたい。そして、コストの面や実現可能なのかという心配をしていただいているが、私たちも本当に大きな計画だと思っている。ただ、どこに住んでいても誰もがサービスを受けられる図書館を何としても実現させたい。

（参加者）舞鶴は特殊な街で都心が二つある。綾部や福知山は都心が一つ。福知山の分館も充実しているが、そうするには金がかかる。だから中央図書館を作るために工夫をされると思うので、それはそれでやっていただいたらいいと思う。以前フォーラムをされたときに、浦安図書館の館長をしておられた方が来られて、トップクラスのビジネスマンが図書館で世界貿易などを調べると言っていた。だが、舞鶴は浦安とは違う。ビジネス関係の本はすぐに古くなるので、そういう本は会議所のお金でやるべき。少ない図書経費を地元の一般住民に。子どもの絵本を読んであげるとか。そういう人のために少ない経費を重点的に使ってほしい。綾部、福知山と同じように。また、本のリクエストがない。これは福知山と綾部にはあるのではないか。それと同時に前市長のときからだが、市長への手紙がなくなった。その制度は何でも相談コーナーに変わって、担当課長が返事をくれるようになったがそういうことではない。市長が変わったので、本のリクエストや市長への手紙を復活していただきたい。本のリクエストについては、購入できないならその経緯を教えてほしい。それから西にできたとする場合、交通費が心配。東からJRに乗ると結構かかる。大浦など遠くからくる方は車で出てくると思うが、駐車場は使えるのか。また、綾部の旧図書館が多目的の建物になったと新聞で読んだ。使えるものは直して、1 階建ての間に合わせでもいいので利用できないか。東図書

館がなくなったら、中高生は一体どこで勉強するのか。それから雑誌新聞は、同じ規模またはそれ以上で継続していただきたい。それから、昭和 18 年全く違う町の西舞鶴と新舞鶴が 5 月 27 日に合体した。戦後昭和 26 年に西の市民の方が西舞鶴は分かれたいと署名をして、市議会で分かれるということになったが京都府議会で反対し、今に至っている。もともとは二つの街だった。歴史から違うところはあっても、いつまでもそんなこと言っていられないのは当たり前。こっちが舞鶴の半分とか 3 分の1とかの話じゃない。同じくらいの人数はいる。そして大浦半島と加佐地区もある。そういう意味では四つの国が、連邦としてあるようなもの。ウクライナとロシアみたいにならないように、前向きにとらえていきたい。あと計画のことで気になるのは、本好き本バカが集まるような場がない。

(事務局)読書会については、東図書館で毎月第 1 土曜日に読書会というのをやっている。毎月 1 冊の本を読んできてもらって交流しているが、それとは違うイメージか。

(参加者)違う。

(参加者)昨年の市長の集いで、今回の中央図書館も含めた西舞鶴の駅前の再開発構想の青写真を見せてもらい、何をするかの説明は受けている。その中で、中央図書館にカフェを設けるという話が出ていた。それについて、今どこまで計画が進んでるのか具体的に教えていただきたい。それから二つ目。ブックモービルについて最終的には何台所有し、どれぐらいの規模でやっていくのか教えていただきたい。それから、分館自体が 2 拠点増える計画だが、分館で実際にどういうことをやるのか説明していただきたい。現物書籍は一切なく、パソコンのみだと聞いている。それから、この資料の中に令和 4 年 4 月に図書館基本計画策定審議会が設置され、令和 4 年 8 月に答申案とある。答申が終わったから審議会は解散したのかも教えてほしい。昨年 5 月の市民フォーラムや図書館市民ワークショップ、今回の懇談会で市民の声、意見を聞こうとされているが、実際にその意見は反映されるのか。審議会が解散していないのであれば、この計画に少しでも市民の意見を反映するような取り組みをしていただきたい。

(事務局)まずカフェ併設の具体的な予定はない。ただワークショップでもカフェを設けてほしいという意見があったので、どのように取り入れるかは今後考えていきたい。

(事務局)ブックモービルについての具体的な計画は、今検討しているところ。全域にサービスを届けるため図書館から遠いところにサービスポイントを設けて巡回する方法や、市内の色んな施設を回る方法もある。また、学校の昼休みに巡回して子どもたちに借りてもらう形もあり、どんな巡回方法にするかは検討中。台数はおそらく 1 台でスタートする。車の規模については、大きな車だとたくさん積んでは行けるが小回りがきかないので細い道を走るのが大変。あまり小さくても載せる本が少ないと魅力に欠ける。そのあたりも含めてご意見があったら頂戴したい。分館については置くのはパソコンのみではない。本も、もちろん置く予定にしている。

(参加者)分館にも本を置くということだが、そもそも、「まなびあむ」の平米数でどれだけ本を置けるのか。

(事務局)「まなびあむ」のどの部屋にするかは現時点ではっきりと決まっていない。
(参加者)ただ、既に舞老連にはその話が行っているのではないか。
(事務局)いっていない。
(参加者)新谷会長から話は聞いている。
(事務局)特にこちらからアクションを起こしたことはない。
(参加者)「まなびあむ」の一角を分館として使う話は既に舞老連にいっている。広さを確認したらあまり広くはない。そんなところで何ができるのか。本当に確認していないなら確認するべきだ。
(事務局)これまでにいただいたご意見については、今後再編を進めていく中でできる限り取り組んでいきたい。ただ実際には、意見の区分けが必要だと考えている。
(参加者)審議会は今存在しているのか。今も開催しているのか。
(事務局)審議会自体は条例上、廃止になっていないので現時点でも審議会は存続している。実際に審議はしていないが、この審議会の条例は廃止になっていないので、今から審議をかけることはできる。
(参加者)審議会というものは諮問機関で今後もずっと審議していく。この計画がそもそも答申されたっていう時点で、解散をしているのか、していないのか、してないのではないか。
(事務局)条例上は審議会は残っているので、なくなってはいない。
(参加者)それなら市民からのいろんな意見を取り入れていただきたいと思う。そのための審議会だ。市民の声を聞かないような審議会ははっきり言っていらない。
(事務局)様々なご意見があるので平等に汲み取っていきたい。
(参加者)いろいろ説明をいただいたが、ほとんどまだ腑に落ちていない。というのも、中央図書館ありきの話が先行していて、それに派生するような形でブックモービルの話が出ている。地域性のことも考えて中央図書館は本当に必要なのか議論はされたのか。審議会でどんな話があったのか具体的に聞きたい。回答は結構なので、そんな意見もあったというふうに捉えていただいたらいい。基本的に地域性のことを考えてほしい。なぜ西の駅の空き地に中央図書館ができるのかというも不明。あの空き地が元々土地開発公社のもので、もう少し対外的な利用のために先行投資をした土地だと思う。そこら辺からいくと少し違うのではないか。それと建設費30億かけてやるのは財政的にも厳しい折に必要なのか。東西図書館の改修に投資していただくことも検討できなかったのか。それらも含めて検討された結果、中央図書館という構想ができたのだと思うが納得がいかない。納得させるためにお話をお聞きする気はない。それから先ほどから言われた舞鶴市の東西の成り立ち、いわゆる複眼都市っていうことから考えると、本当に中央図書館は必要なのか僕にはまだわからない。中央図書館ができるなら、図書館へアクセスするためのシャトルなどを考えてほしい。私は高齢者なのでいつか免許を返上いないといけない。ところが舞鶴市は車がないと生活できない。だから利用度を増やすためにも何か方策を考えてほしい。
(事務局)まだしっかり理解できないという意見もあり、このような形だけでお伝えするのは難

しいと感じた。理解していただくためにもう一度組み直して考えていきたい。また東から西へ行くためにシャトル便が必要というご意見もいただいたので、それについても考えていきたい。

（参加者）皆さんのご意見をかたちにするために、難しいこともあるんだろうなと思いながら聞いていた。私が今までの図書館のことをまだまだ知れてないからこそ、将来像のイメージについて質問したい。課題解決型図書館を実現するために今できていることや、将来どのような情報提供をするのか、専門家を紹介するのかなど、中央図書館のイメージを膨らませるために聞いてみたい。

（事務局）資料の 5 ページに出ていることではあるが、中央図書館ではデータベースを導入する。関係機関の紹介は現時点でもしているが、いろんな機関と繋がることでもっと幅広く紹介をしたい。またインターネットでいろんな情報が得られるが、必要とする正しい情報を調べるための支援もしていきたい。それから就農希望者などへの創業支援が今の図書館ではできていないので、今行っているレファレンスをもっと幅広く深くやっていきたい。

（参加者）傍聴の方に今日の懇談会をお聞きになられて、どのような感想を持ったか聞かせていただきたい。

第4回　図書館再編についての懇談会(傍聴者からの意見聞き取り)

1. 開催日時　令和6年 5 月 18日(土)
2. 開催場所　東図書館研修室
3. 傍聴者　 10 名
4. 内容
　・10 時 15 分～12 時 15 分　　通常の懇談会
　　傍聴者からの意見聞き取り時間

【傍聴者からの聞き取り】

(傍聴者)毎回こんな感じ。全然市民の話を聞いてくれない。4 回行かせてもらったが4回とも茶番だった。皆さんの言った意見も多分黙殺されると思っている。この会を市民が納得いくまでぜひ開いてもらいたい。審議会も呼んで東の市民の意見を聞いてほしい。あなたたちが考えるのではない。あなたたちの図書館じゃない。あなたたちの働く都合とか、希望とかを聞いているのではない。茶番はもうこれで終わりにしてほしい。次回からちゃんとしたものを開催するようにお願いしたい。

(傍聴者)私が 3 回出てきて思ったのは、大きい中央図書館を建てるのが最初からの計画という感じがする。とにかく大きいものを一つ作ったらいいという印象。保育所と同じ。あちこちにあると通勤途中で預けたりできたのに、保育所を一つにまとめてしまった。そのあたりはどうなのか。

(事務局)マネジメントの面で言うと、集約統合は必要だと考えている。ただ中央図書館は集約統合した後に全域にもしっかりとサービスを届けるという考え方。サービスを上げることを目標としているのでご理解いただきたい。

(傍聴者)今日意見を述べられた方は、「まなびあむ」とか商工観光センターの駐車場が有料だということ、司書がいなくなることについてご存知なのか。以前からこの計画について知らない方が多いので、「賛否を取ってほしい」とか図書館に「図書館が閉館します、「まなびあむ」と観光センターに10 分の 1 になって書籍は減ります。」と貼りだしてほしいとずっと言っているがそれの回答がない。

(事務局)駐車場が有料なのはおっしゃるとおり。分館になったら、例えば 2 時間無料にするなどして対応できるかもしれない。

(事務局)司書を置く必要はあると思っている。必ずしも置かないと決めているわけではない。それから PR をしっかりすべきだという意見にはおっしゃるとおりだと思っている。

(傍聴者)早く貼りだせばいいじゃないか。

(事務局)資料を作って提供したいと考えている。

(傍聴者)車の補助を出すと言うが、利用が少ないからそのうちなくなるのは目に見えている。実際に書籍も減らされているから、先のことを考えて存続を考えてほしい。

(傍聴者)何か貼りだされるわけか？

(事務局)今、資料の中身を考えているのでできる限り早くはしたいと思っている。

(傍聴者)賛否をとるのか。
(事務局)賛否については現在のところ考えていない。
(傍聴者)なぜか。知らない住民が多いのに。
(事務局)まずはしっかりと決まったことを説明していく。
(傍聴者)私西地区に住んでいて、近くに住んでいるけど知らなかった。
(傍聴者)知らない人がいるってずっと言い続けているのに一向に返事がない。
(傍聴者)だからそれを聞いて来た。どうなっているのかと思って。
(傍聴者)「広報まいづる」に載せればよいではないか。写真ばかり載せるのではなく、普通のスペースに図書館を載せもらいたい。市民の図書館を守ってもらわないと困る。「広報まいづる」は写真ばかりで、アンケートで商品当選させて姑息。図書館を存続させてほしいという声があるのに、司書の方は本当にこれでいいのか。
(傍聴者)図書館協議会ができたのは、貸出冊数が減ったからではなく、図書館の図書費が半分になったから。これはあまりにもひどいので図書館協議会を作ってほしいという意見書を出した。そして 4 年ぐらい前に図書館計画を作るという話があった。福知山市には、まがりなりにも中央図書館ができてそれぞれの分館に対してサービスをするっていう計画案のかたちができている。一方で舞鶴市は東西の間だけは本を借りられるが、他の分館に対しては何もしないという状態がずっと続いている。だからこそきちっとした図書館計画を作って、どう改革していくか方向を示すべきだという意見書を書いた。その流れの中で図書館協議会ができて、図書館基本計画プロジェクトになった。今その計画を忠実に作ろうとしているのかという点ではいろいろ疑問があるし、計画の中にもいろんな矛盾がある。それの一番いい例が、図書館計画の基本方針の 123。私はこの順番は、本当はさかさまだと思う。まず全市域のサービス網の構築をやって、それから多角的な構成。そしてさらに、課題解決型のサービスもする。なぜかというと、図書館法の中に図書館の役割に学習教養リクリエーションと書いてあるから。そういったことに対してサービスすることを言っているわけで、課題解決型サービスが図書館法の基本的な考え方ではない。だからこそ、リクリエーションも含めたサービスを満たした上で、利用者一人ひとりに対して必要なサービスをする。それが今まで日本で弱かった部分だということで、課題解決型の図書館と言い出した。ただ、浦安の図書館のホームページには課題解決型図書館なんて言葉は書いていない。図書館をどう使うかは、あくまで利用者が自分で選択をするものだ。それに従って一人ひとりのどんな小さな疑問にも答えるようなサービスをしますという形で書いているわけで、課題解決に何か幻想を持って話が進むことに対して疑問に感じている。だからできたらこの基本方針 123 逆さまにしてほしい。それから中央図書館は、今まで放置されていた分館を充実させるために必要。それは単に高度な情報サービスというよりは、地域の住民が必要なものは手に取れるようにするためにも中央図書館は作っていただきたい。今でも中央図書館という組織を作って実際にサービスを始めて、出来上がったときにこれぐらいのスペースがいるなということでやっていくとか。作り方や運営の仕方はもう少し柔軟に考えてもいいのではないかと思う。
(傍聴者)全部ソフトの問題でハードじゃない。
(傍聴者)コストパフォーマンスなどの天秤にかける材料が少なすぎる。今は 38 億円図書館のことだけ出ているが、ランニングコストや人件費や、図書館残すのなら 10 数億かかることの

ソースはどこなのか。耐震工事などすべて舞鶴市が負担しないといけないそうだが、亀岡市には1億8000万のうち1億6000万国から補助が出たと聞いている。耐震工事に出せないのはちょっとおかしい。2つ残した場合の 10 数億円の内訳について聞いたら次出しますと言っていた。今日で懇談会は最後だがいつ出してもらえるのか。

(事務局)その 10 数億というのはあくまで想定であり、業者から見積もりを取ったものではない。

第1回 これからの図書館を考える市民ワークショップ

1. 開催日時 令和6年４月27日(土) 14時～16時
2. 開催場所 舞鶴市総合文化会館 小ホール
3. 参加者 41名(内 司書４名) 10代～80代(男性20名、女性21名)
4. 傍聴者 ７名
5. 内容

①挨拶及びワークショップの趣旨説明(生涯学習部長)

②中央図書館設計事業者からプロポーザル提案について(遠藤勝彦設計事務所)

設計にあたっては、中央図書館というすばらしい建物について、その先にあるもの、町のこと、人のことを皆さんと一緒に考えていくというスタンスで臨ませていただいている。この基本計画概要版の中で述べられている４つの要素(「人、資料、施設、市民」)を重要視し、計画を検討してきた。現地を見に行って、周りの状況をリサーチした上で、基本計画情報を元に検討にあたった。それらを発展させた以下の７つのポイントをプロポーザルでは提案した。

1 北部地域の中央図書館として、エリア全体の機能を強化、機能強化型の中央図書館の提案
2 市民とともに成長できる、市民が活躍できる課題を解決するための図書館のあり方
3 駅を含めた周囲、町づくりとしてのエリアの機能を最大化するためのエリアをつなぐ建ち方
4 日本海側の気候特性を活かしたここだけの風景を実現するための建築の形
5 雨、風、雪、豪雨、災害にも考慮した環境と共生する施設のあり方
6 充実した情報、蔵書数が確実に確保できる施設計画の提案
7 蔵書増床の拡張性を担え、コストを抑えつつも展開できる広がりがもてる新しい図書館

また、基本計画の概要の中では、「暮らし・学び、社会につながる情報の窓、出会い・地域」という、三つの図書館の旗印が掲げられている。それとともに、プロポーザル時点では、昨年度実施されたWSの内容も拝見しながら、提案をまとめていった。それらを踏まえて「暮らし・学び・情報をひろげる まいづるインフォメーションライブラリー」をプロポーザルで当社から提案した。

新しい図書館では、連携拠点となるためのサービスを広げていくための仕組み作りが重要と考え、BM、分館の配置等を検討する事を含めて、図書館のシステムを新しい中央図書館で広げる仕組みを作ることを提案している。基本計画に記載されている概念図を元に、中にも外にも広がっているようなイベントスペース、市民活躍テーブルなど、市民が交流できるような空間を広げることを提案した。テーブル、ソファーの配置、子供の利用場、交流エリアなど、司書が使いやすい図書館として管理運営をどのように計画するか、新たな提案をお伝えした。模型を展示しているので、これまでの意見を含めて新しい図書館に対する意見をいただければと思っている。空間的には１階床面積は、利用しやすいように、広々と確保している。資料の充実を意識しながら書棚をたくさん置いている。２階は、貴重書とか災害が発生した際に影響が少ないように、貴重な書物を含めて設備系統を配置している。館内がわかりにくくならないように中央に階段、どこからでも司書が見つけられ、利用しやすいことを意識した。２階からは、吹き抜けを見降ろせ、上にいても下の様子がわかる、逆に下にいても上の様子がわかる空間の作り

方をしている。利用するみなさんが課題をどうやって解決するか、本をどうやって探すか、迷った際にも司書がどこにいるかわかるような空間構成を意識して、1 階と 2 階がつながっていくような構造になるよう意識しながら設計した。舞鶴特有の気候、雨がしのげるゆとりのある軒下空間、ガラスを一部開放すると風が抜けるような自然環境を活かした空間作りを意識した。1 階の中央付近は、書棚の間にデジタルを使える、検索、学べるようなスペースを充実することにより、利用しやすい場所に「情報に触れるきっかけとなる空間」を作っていく。子供エリアは、低い書棚、子供達がのびのびと過ごせるスペース、多世代の方々が、利用していただける空間を作っている。2 階に関しては、一部外に出られるような空間、外の空気を感じながら休憩できる、自分だけが選択し、選んでいける読書席みたいなことを随所ちりばめる空間を提供し、充実した図書館を提案した。また、働く世代の調べ物をできる場所として活用できるよう、ビジネスに活用できる書棚を設けて、司書とすぐ相談できるようなカウンターを小さく設ける。

今までの説明で、オープンな開かれた空間が多いというイメージをもたれると思うが、一方、音的に閉じた場所を設けることを意識した。2 階には防音対策、音を遮断してケアできる場所を重要視している。これらの外装を含めた環境的な日射の抑制のためすだれのようなルーバーを周囲につけて、本の日焼けなどのケアをプロポーザルで提案した。大きな吹き抜けは風が自然に抜けるということがあるので、気持ちがよい、音を出してもいい状態、賑わいのある図書館作りに寄与していく。このようなエリア設定検討をしながら駅前に建つ中央図書館を御提示した。

プロポーザルというのは、あくまでも途中、いろんな意見を聞きながら、建物を造っていく。だからこの模型が最後にはだいぶ違った形になる。全くの完成の模型ではない。このタイミングの模型と理解していただきたい。皆さんにいいところも悪いところも見つけていただきたい。公共建築の設計というのは、設計者が勝手に造っていくのではなく、参加した人が「私がいなかったらこの建物のデザインはこうならなかった」みんなの思いが重要であると考えている。全員が「私がいなかったらできなかただろう」といえる。そういう意味ではこういう WS で、よりよくしていく意見が大事だ。

③設計案についての質疑応答

（参加者1_Q）今回の設計ではロータリー道路が入っていると思う。設計範囲はそこまで入っていた。今、説明は建物ばかり。なぜ、出てこないのか。実際に人が今歩いている。潰そうという話なのか。どのような考えでいるのか。執行部にきいても全く答えがない。どのようなコンセプトで考えているのか。

（設計事務所_A） 道路をどこで、敷地境界として確定するかは、まだ、明快に全部決まっているわけではない。今、設計要件の予定の整理をしている段階。今日の WS については、これからの中央図書館の枠組みにつ いて説明した。同様に、これから外構計画についても設計を進めていく。この点については、皆さんと一緒に考えていくという風に伺っている。これも、そういう機会があると思う。このロータリーの真ん中をどうするのか、反対の駐車場のようなところも考えていかねばならない。今後、今回の計画の中でご提示する機会がある。その点については、ご意見を頂戴したい。

（参加者1_Q）あそこに何があるのかご存じと思う。現在進行中形だ。どこまで潰すか確定を早めに聞かないと、ボランティアしている人間達の気持ちを阻害する。延ばして、延ばして、最後に全部更地してということになれば、中央図書館が地元に愛されるかどうかの瀬戸際だ。早めに出してほしい。

（設計事務所_A） 早めに決めたい。少なくとも潰そうという計画はでませんので、ご安心願いたい。
（参加者1_Q）そういうふうになるのなら、寝っ転がっても、阻止する。中央図書館の建設もやめてほしい。
（設計事務所_A）外構のデザインチームも、入ってもらっている。今の地域で起きている大切な出来事、社会資本と私たち呼んでいるがこの地域の資本力が、人、ボランティアをリスペクトして計画していきたい。
（参加者1_Q）行政側の財源では全く世話できない。それを踏まえて植えるかどうか。行政はロータリーのケヤキも何年もお金をかけていない。お金があるから外構をするというのは、ダメで、今後、何十年も木が育つことを考えてもらいたい。ほったらかしになったらどうなるのか、考えられた方がいい。
（参加者2_Q）東図書館の存続を願う団体の代表だ。現在、東図書館を守る署名が、850ぐらい集まっていることをご承知おき願いたい。この土地は1m～3mの浸水がある。この地域は60cmのかさ上げでは足りない。千年に一度の氾濫の想定で 1m から3mの浸水があるので、私はこの計画ができたときから、1階が駐車場と勝手に理解していたが、まさか、1 階が図書室といわれ想像もできなくて、あっけにとられた。60cmで浸水した時どうするのか。周りがガラスで覆われているが、光熱水費のことを考えるとすごい経費がかかると思う。太陽光らしきものがあるが、それで賄うという計画ではないかと思うが、太陽光では賄えきれないし、蓄電池も相当な予算がかかる。夏は、ルーバーとかで防げるが、冬は相当に寒い。冬がおそろしく光熱水費がかかると思う。
（設計事務所_A）私たちの事務所の一番の問題は、財源をどうするか。これくらいの財源の中で、この面積で、この蔵書数と指標があって提示されている中で、細かく積み上げて、プロポーザルし、面積をどうつくるかが、ものすごく現実的な問題。正直にいう。60cmで全く十分とは思っていない。新たに、敷地調査しているが、コストはシビアだ。そのあたり、みなさんの意見をお伺いしたい。二つ目のガラスの件。ゼロエネルギー施策をとれるべく今動いている。ガラス面積が大きいが、風景がなくていいのかとエネルギー対策をとるのか、私たちは「この場所でしたら」ということで、現時点でこの提案をした。これからガラス面を減らすか、今、市からこの話もされていて、面積を減らすべく計算しているところ。
（参加者3_Q）西舞鶴は土地が低い。前に質問された方と同じ意見だ。ガラス面というのが気に入らない。西駅交流センターもガラスで全く使い物にならない。災害に向けても心配がある。予算の関係もある。デザインより機能重視でお願いしたい。
（設計事務所_A）ガラスが多いというのも検討していく、ご意見をいただきたい。機能重視でいく。
（参加者4_Q）場所的に水没しやすい。車いすの方、障害者、高齢者の方は動きやすく考えられているのか説明がなかった。
（設計事務所_A）100%バリアフリーで、エレベーター、駅側・北側・奥側にもスロープを設けて利用しやすいように考えている。設計チームには防災・減災のチームを入れている。

④グループワーク

設計案をみて、「不足点」、「充足点」について、意見交換。
「不足点」（3 点）、「充足点」（3点）を各自ワークシートに項目及びその理由を記載
クループにて意見交換後、グループ代表者が出された意見を発表

※個々のワークシートについては、終了後、設計事務所が回収し、設計案に反映していく予定

【グループ発表】

○グループ6

（充足点）広い。冊数30万冊で、「わいわい、がやがや」スペースが充実しているのがよい。

（不足点）洪水対策ができていない。子供の居場所、カフェ、駐車場は１階の設置に反対された質問者の方の意見に賛成。シックハウス対策できているか。水害・原発避難時の対策がないので、計画は白紙に戻したらいいと思う。人口減少なのに大きな建物はいらない。白紙撤回を求める。

○グループ7

（充足点）にぎやかな図書館を目指している。解放感がある。ロータリー側に交流スペースがあること。

（不足点）ランニングコスト、吹き抜けによる断熱性。屋根から雪が落ちないような設計だが、その後の処理はどうなるのか。車いす配慮、限られたスペースしか利用できない。子供のスペースはあるが、保護者はどうしているのか。

○グループ1

（充足点）ガラス張りは一方で開放感がある。ビジネスエリアがいい。PCが使える場所が舞鶴は少ない。ビジネスマンが使いやすい。BMは評価するが、今の施設でもできる。

（不足点）この場所は舞鶴の最後の一等地、図書館だけではもったいない。利用方法を市民で考えてみたら。複合施設。体育館・、会議室がほしい。図書館の中に音楽スタジオはいらない。独立して、お金をかけ舞鶴にて足りない施設を造ってほしい。もっと有効活用することを考えてほしい。災害対策弱い。数万冊の本が水没する。１階を図書館にするのは本好きとしては忍びない。建物は水没すると「かまぼこ板」にしか見えない。ガラス張りは光熱費もかかる。本の日焼けが本好きには好ましくない。

○グループ3

（充足点）吹き抜けを中心とした高さのある心地よい空間広がっている。子供達のスペースなど。階段が中心にあるのは利用、移動しやすい。くつろげる施設があるのもいい、寝転んだりでるのがいい。

（不足点）集中して利用できる学習テーブルを増やしてほしい。駅前風景として舞鶴ならではの特長をもう少し外観に取り入れてほしい。ガラス面のランニングコストはどうなのか。洪水に対しての防災面の懸念を考えてほしい。

○グループ２

（充足点）開放感、息抜きしやすい、子供エリアも充実、子連れで行きやすい。

（不足点）企業、大型スーパー等が、フードバンク。ブックバンク等に協力できたらいい。外観だが、赤れんが、海があるので、もっと活かしていけたらいい。

○グループ5

（充足点）いろんな席があって、居場所がありそう。とてもシンプルで外装がいい。初めて参加したが、基本設計には満足している。

（不足点）建物に関しての良さの説明がなかったのが残念。30億円になったのか説明がなかった。照

明はやさしい、くつろぎのある照明を取り入れてもらいたい。ガラスが多くなくてもいいのではないか。駅からのアクセスは、傘がなくてもいけるようにしてもらいたい。くつろぎスペースとして、カフェを作ってもらい
たい。

○グループ4

(充足点)ガラス、吹き抜け開放的な面がいい。エリアが充実している、ゆったりできるスペースとかがあっていい。

(不足点)駅の近くでガラス張りは遮音性とかどうなのか。学生などの利用があるので、スペースが色々あって、声が響く環境であると思うので、図書館は静かにしてほしいと思う人もいると思うので、音の環境はどうなのか。JR、イベントの利用者など駐車スペースが不足なのでは。

※個人ごと意見は、別添資料参照

⑤アドバイザー等総括

【常世田アドバイザー】

質の高い議論、レベルの高い話をしていただいた。時期的な出水対策の議論もしていただき、駐車場の問題、また、騒ぎたい人もいれば、静かに過ごしたい人もいるという等という空間の多様性の問題など。30 億円、200平米は難しい大きさ。もう少し大きければ、皆さんのご希望も取り入れて自由に設計でき、もう少し小さければできることは限定される。次回ワークショップに参加していただきたい。

【遠藤勝彦設計事務所代表】

ご意見をいただき、感謝申し上げる。舞鶴市民が抱えられている事柄を実感した。

「ローカル」ということを本質的にとらえ、どういう方向で向かっていくかを設計チームは受けとめたと思う。地方自治体の問題は、人口減、子育て、経済が落ちてきていること。人口減は子育ての問題で、1 人300万円落ちると 100 人で 3 億減円少するといわれている図書館がもしかしたら経済の問題を受け止められるかもしれないとのコメントがある。私達だけではどうにもならない。計画をまとめていく中で皆さんのお力をお借りしながら設計を進めていきたい。